

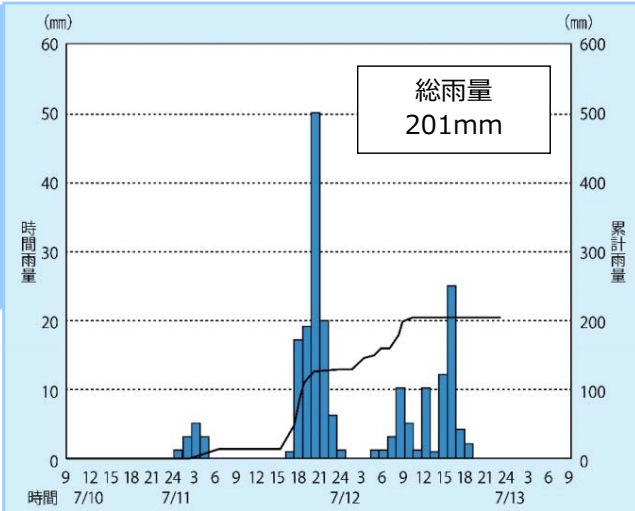
現状のリスク情報や取組状況の共有

(1) 現状の水害リスク情報

近年の洪水発生状況(関川)

- 平成7年7月には梅雨前線豪雨により戦後最大流量（2,580m³/s）の洪水が発生し、多くの被害が発生した。
- 関川流域の降雨は300mmを超えた。関川、保倉川上流区間では、河岸決壊、堤防決壊、道路冠水等が発生した。
- この洪水により、行方不明者1名、全半壊70戸、床上浸水2,167戸、床下浸水2,620戸などの被害が発生した。

上越市 高田（雨量）

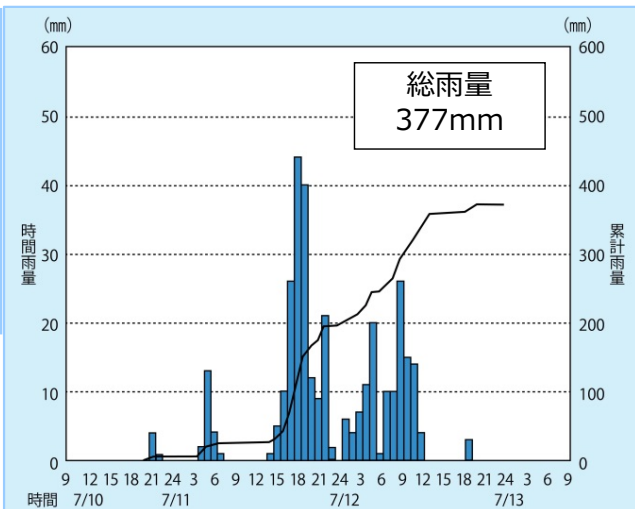


保倉川大橋左岸側（浸水状況）



妙高市月岡地先 破堤

妙高市 笹ヶ峰（雨量）



妙高市巻淵 河岸侵食



新井南中学校（当時） 河岸侵食

近年の洪水発生状況(姫川)

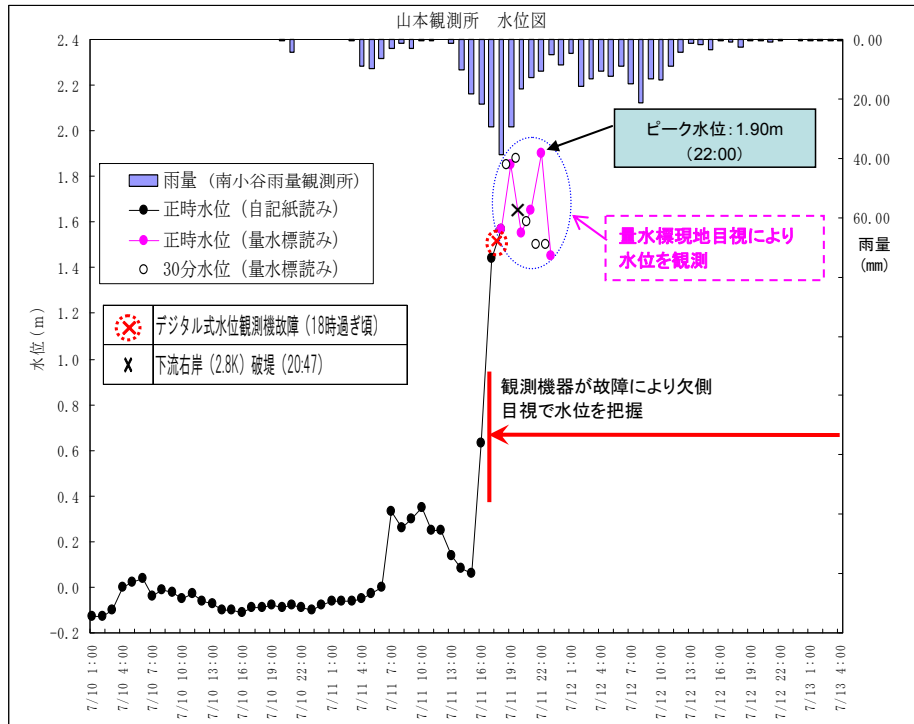
- 平成7年7月には梅雨前線豪雨により戦後最大流量（4,400m³/s）の洪水が発生し、多くの被害が発生した。
- 姫川上流域の降雨は300mmを超えた。上・中流域では土石流が発生、下流域では堤防決壊（侵食破堤）が発生した。
- この洪水により、家屋全半壊38戸、床上浸水48戸、床下浸水195戸、JR大系線不通などの被害が発生した。

■平成7年「7.11水害」被害状況

「7.11水害」では、上・中流域の38溪流で土石流などの土砂流出が発生。下流域では洗掘に伴う侵食破堤が発生。一時は糸魚川市平岩など19集落・425世帯が孤立。被害としては下記のもの挙げられる。

- ①家屋全半壊 38戸
- ②床上浸水 48戸
- ③床下浸水 195戸
- ④その他、国道148号流出、JR大系線流出 等

なお、国道148号、JR大系線の完全復旧まで要した月日は約3年である。



雨量・水位状況 (山本水位観測所)



湯原 土石流発生状況



蒲原沢 土石流発生状況



糸魚川市平岩 JR大系線被害状況



国道148号 唐沢洞門 被害状況

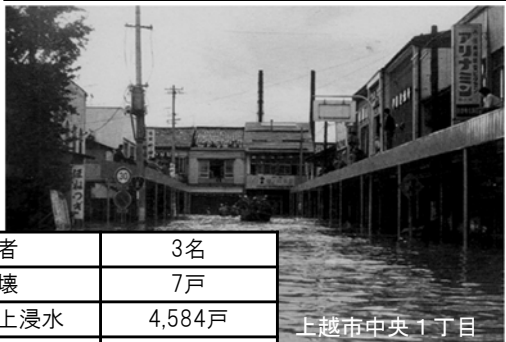


糸魚川市上刈 破堤状況

過去の被害状況(関川)

■低平地である上越市では、昭和40年9月～平成7年7月までで大きな洪水が計6回発生した。
 ■洪水により堤防が決壊する等、上越市の市街地等で多くの床上・床下浸水被害を生じた。

昭和40年9月水害【台風】




上越市中央1丁目
現・レインボーセンター付近

死者	3名
全壊	7戸
床上浸水	4,584戸
床下浸水	1,434戸

昭和44年8月水害【梅雨前線】




上越市東本町3丁目

床上浸水	264戸
床下浸水	978戸

昭和56年8月水害【台風】



関川
稲田橋左岸溢水状況（北城町付近）

床上浸水	512戸
床下浸水	538戸

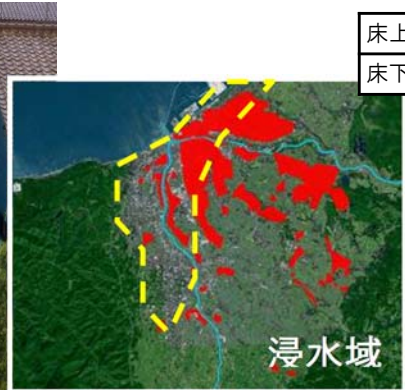
昭和57年9月洪水




関川
浸水域

全半壊	5戸
床上浸水	2,738戸
床下浸水	4,472戸

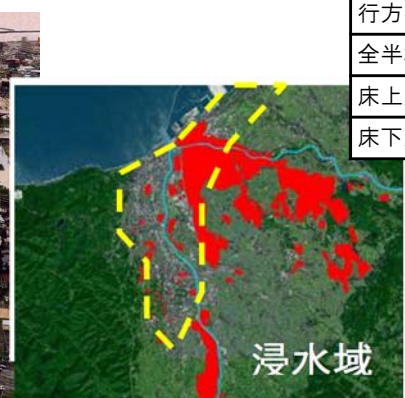
昭和60年7月洪水

保倉川
浸水域

床上浸水	302戸
床下浸水	2,171戸

平成7年7月洪水

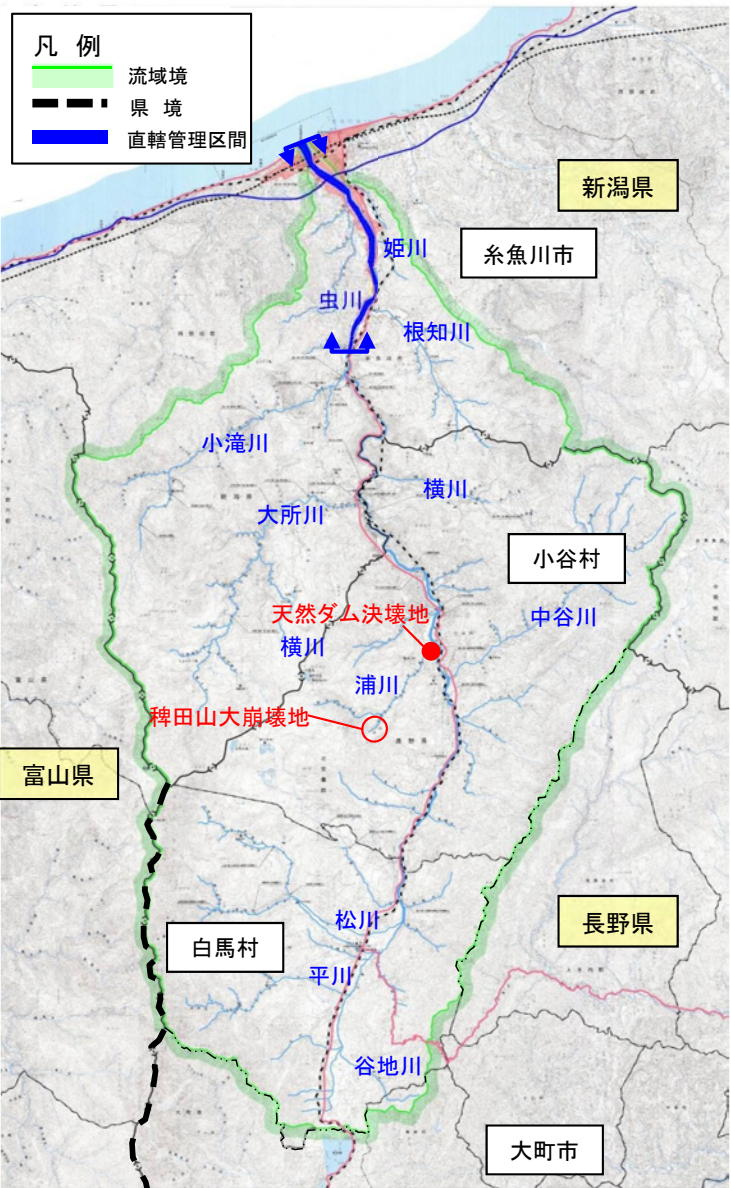



保倉川
浸水域

行方不明	1名
全半壊	70戸
床上浸水	2,167戸
床下浸水	2,620戸

過去の被害状況(姫川)

- 明治44年稗田山大崩壊により、家屋26戸が流出、死者23名の大災害が発生した。また、崩壊土砂は、姫川を堰き止め、天然ダムを形成した。
- この天然ダムが、翌年の明治45年7月の豪雨により決壊し、多くの家屋が濁流とともに流出したほか、姫川に架かる橋は全て流出した。



■明治44年8月稗田山大崩壊

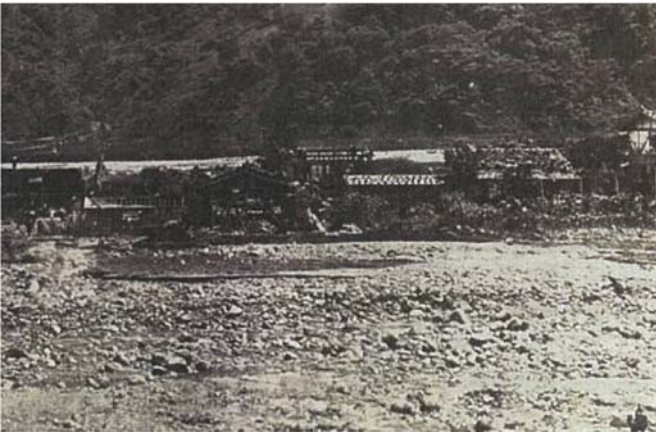
崩壊土砂は、浦川を埋め尽くしたうえ、土石流となって姫川との合流点に達し、天然ダムとなって姫川本川を堰き止めた。湛水は合流点から約3 km上流の下里瀬地区まで及んだ。
この土石流により、家屋26戸が流出、死者23名を出す大惨事となった。



稗田山大崩壊（浦川）の状況

■明治45年7月天然ダム決壊

稗田山大崩壊により、形成された天然ダムが豪雨により決壊。濁流は、姫川に架かる全ての橋を流出しながら糸魚川市まで到達。また、糸魚川市水崎では堤防が決壊した。



上：当時の湛水状況（場所不明）

下：ダム決壊に備えて避難を開始した小谷村来馬集落の状況

過去の被害状況(姫川)

- 昭和34年9月の台風では、白馬北小学校をはじめ家屋114戸が被災した。
- 昭和40年7月の台風では、2戸の家屋被害が発生した。
- 昭和44年8月の前線集中豪雨では、120mm以上（山本）の降雨があり、床上浸水120戸、床下浸水205戸の被害が発生した。また、橋梁の流出被害等が発生した。

■昭和34年9月台風 被害状況

北城(白馬村)の総雨量は159mmに達し、松川の堤防が決壊したほか、土石流等の被害が発生した。

出水被害状況	
被害家屋【戸】	114



昭和34年9月台風水害 松川
(堤防が決壊して氾濫)

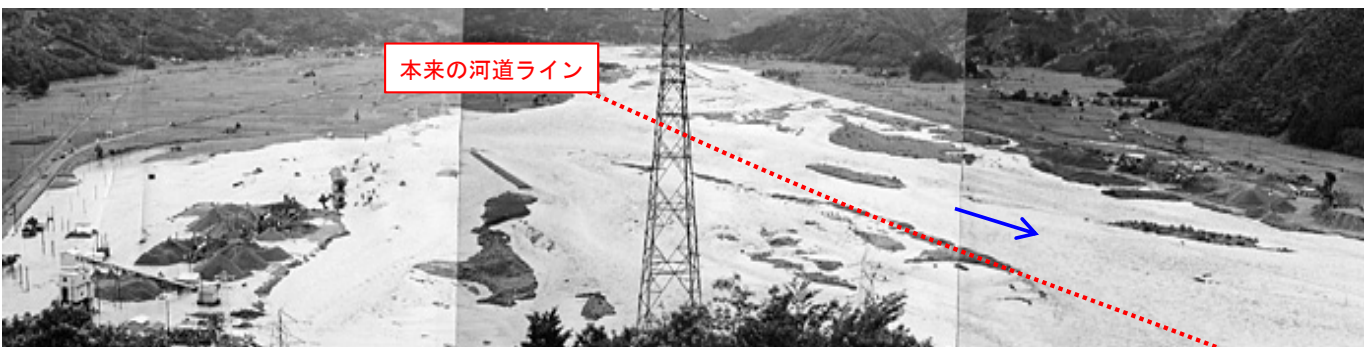


昭和44年8月洪水(水害) 大野地区
(押し流された今井橋と堤防)

■昭和40年7月台風 被害状況

山本上流域の流域平均24時間雨量が約110mmに達し、大野地区において堤防が決壊、床上浸水等の被害が発生した。

出水被害状況	
死者【人】	不明
被害家屋【戸】	2
浸水家屋数【戸】	不明



昭和40年7月台風(水害) 大野地区

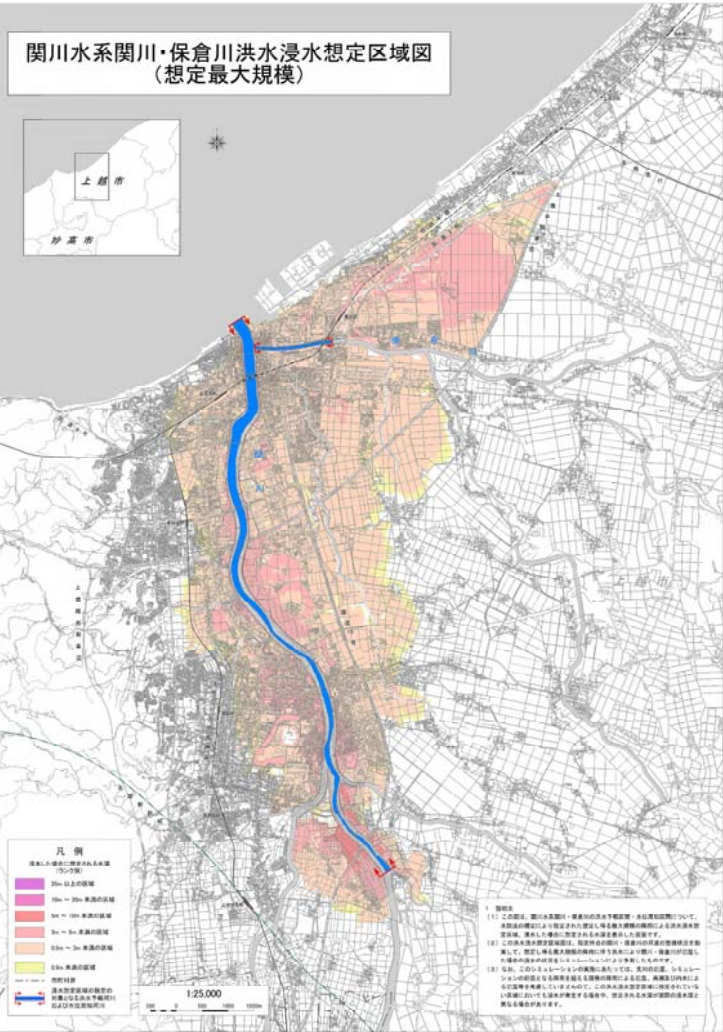
■昭和44年8月洪水 被害状況

山本上流域の流域平均24時間雨量が約120mmに達し、橋梁の流出等の被害が発生した。

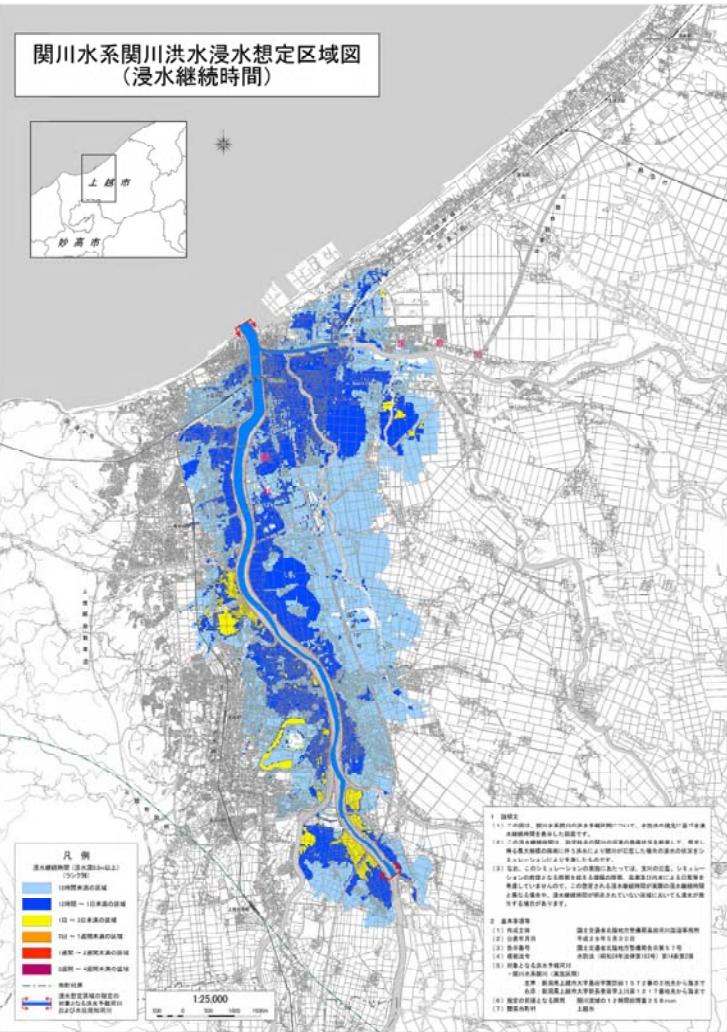
出水被害状況	
死者【人】	不明
半壊床上浸水戸数【戸】	120
床下浸水戸数【戸】	205

関川・保倉川想定最大規模の浸水想定区域図の公表

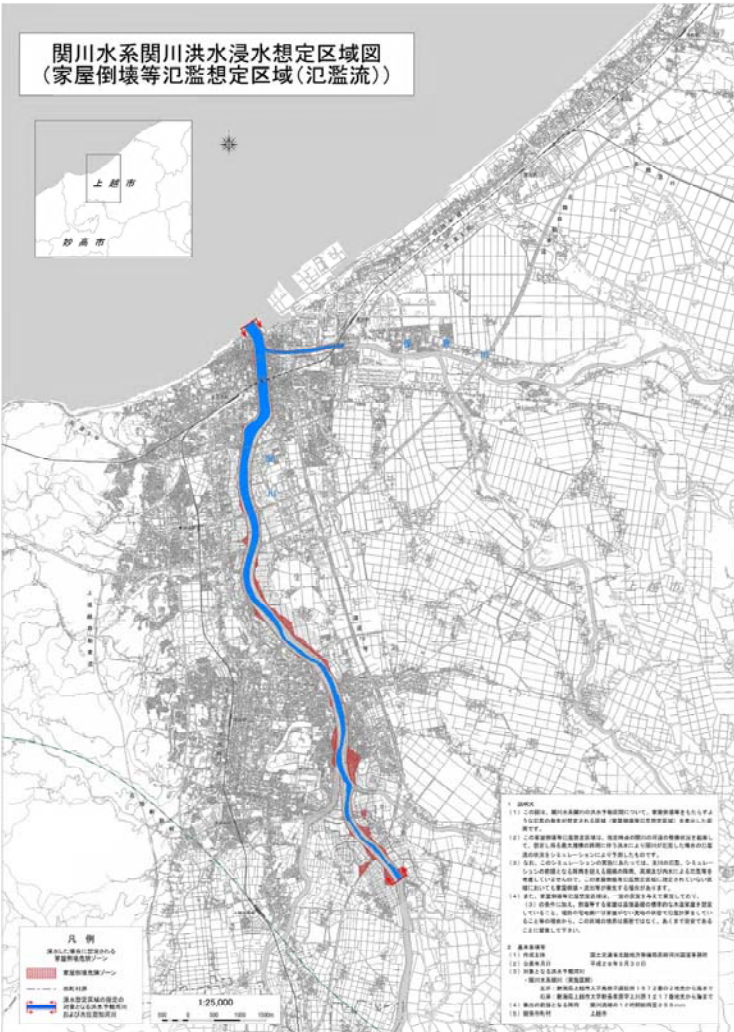
■ 関川及び保倉川においては、平成28年5月30日に**想定最大規模**の浸水想定区域図を公表した。



関川・保倉川洪水浸水想定区域図：想定最大規模



関川浸水継続時間図：想定最大規模



関川家屋倒壊等氾濫想定区域図：想定最大規模

【関川・保倉川浸水想定区域図（想定最大規模） <http://www.hrr.mlit.go.jp/takada/bousai/sekikawasinsui/index.html>】

国土交通省
高田かわこく
河川国道事務所

姫川浸水想定区域図

被害状況

被害総額(億円)	1,274
被災人口(人)	5,837
床下世帯(戸)	501
床上世帯(戸)	1,346
浸水面積(km ²)	3.95

× 破堤点

浸水深(m)

- 0.5m以下
- 0.5m~1.0m
- 1.0m~2.0m
- 2.0m~5.0m

高田河川国道事務所

破堤地点を選択してください。

位置図

位置図

位置図

山形県
福島県
前橋
大湯温泉
10分
30分

破堤地点：左岸 0.6km

【最大】

最大濕水	
------	--

10分20

2023
2024

5074

1. 目的

2時間後

6時開講

12時間

24時間

--	--

凡例

浸水溪

[illegible]

1

三

i/h

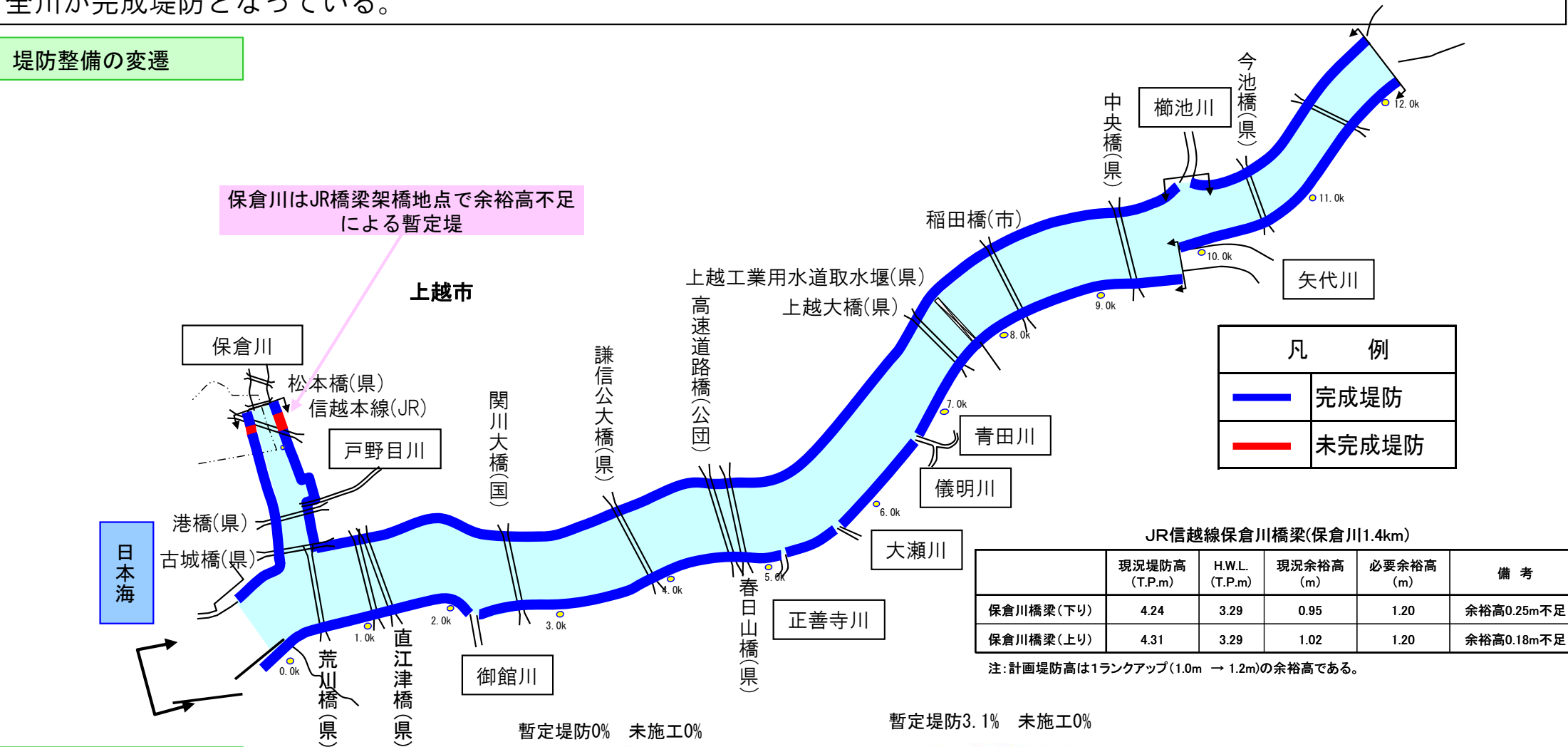
11/11

8

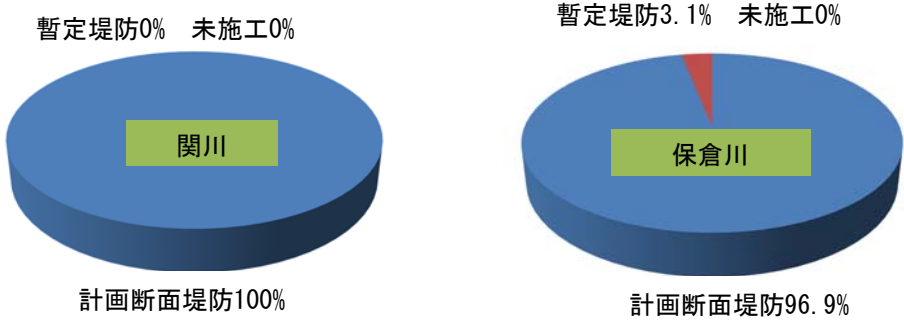
現状の堤防整備状況(関川)

■平成28年3月時点での堤防整備状況は、計画断面堤防の整備率は関川で100%、保倉川では96.9%となっており、概ね全川が完成堤防となっている。

堤防整備の変遷



堤防整備率



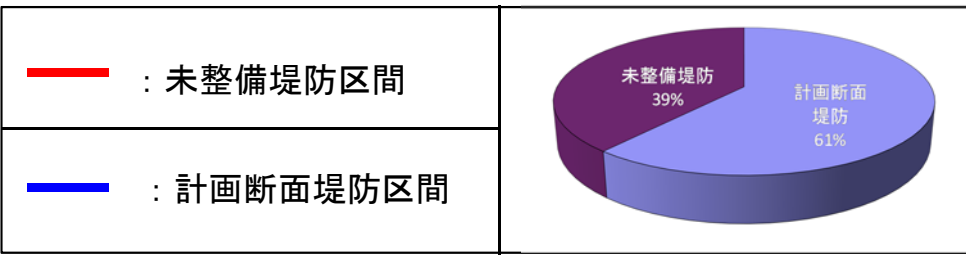
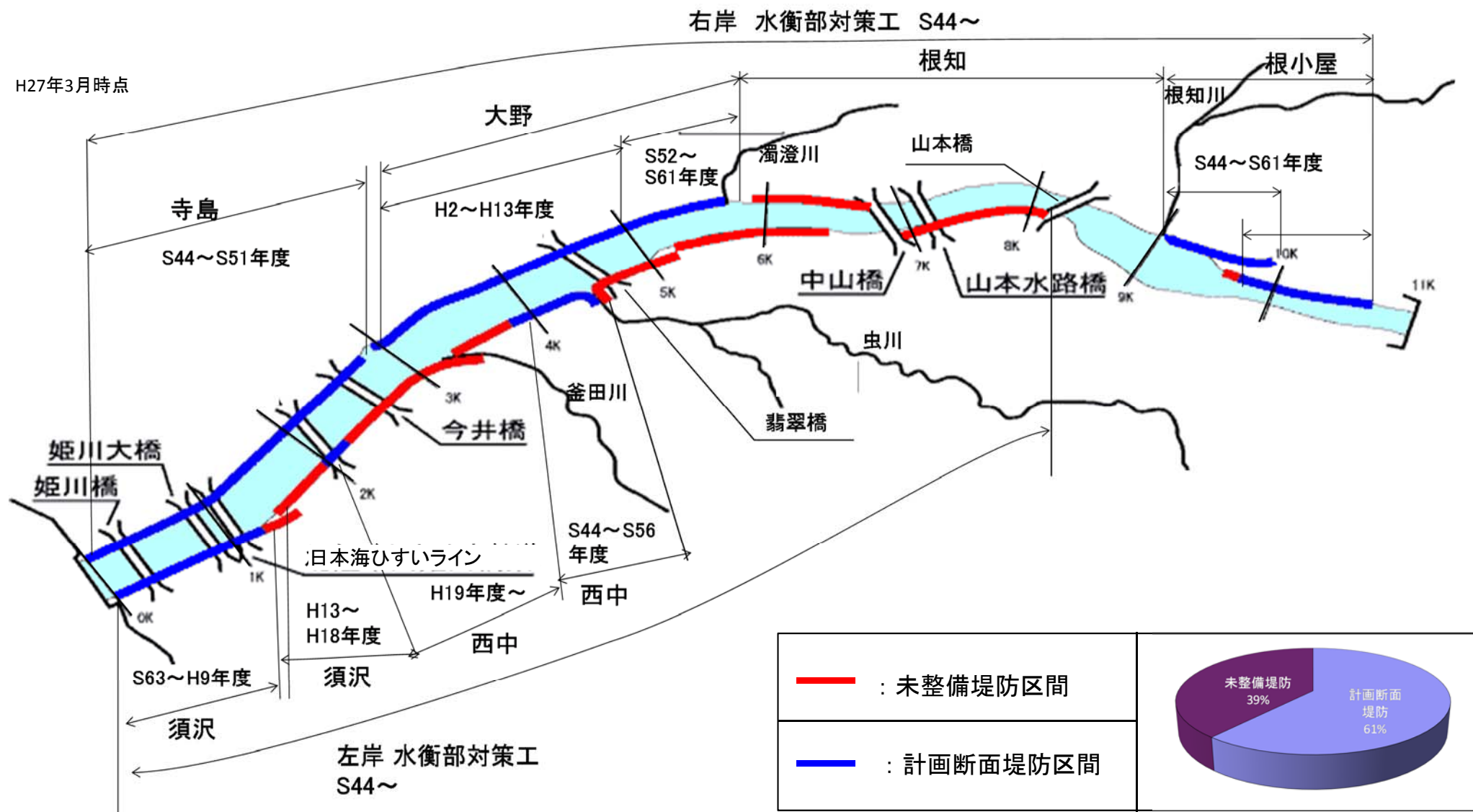
JR信越線保倉川橋梁(保倉川1.4km)					
	現況堤防高 (T.P.m)	H.W.L. (T.P.m)	現況余裕高 (m)	必要余裕高 (m)	備 考
保倉川橋梁(下り)	4.24	3.29	0.95	1.20	余裕高0.25m不足
保倉川橋梁(上り)	4.31	3.29	1.02	1.20	余裕高0.18m不足

注:計画堤防高は1ランクアップ(1.0m → 1.2m)の余裕高である。

参考:高田河川国道事務所資料(河川事業の再評価説明資料 H26.9)より修正

現状の堤防整備状況(姫川)

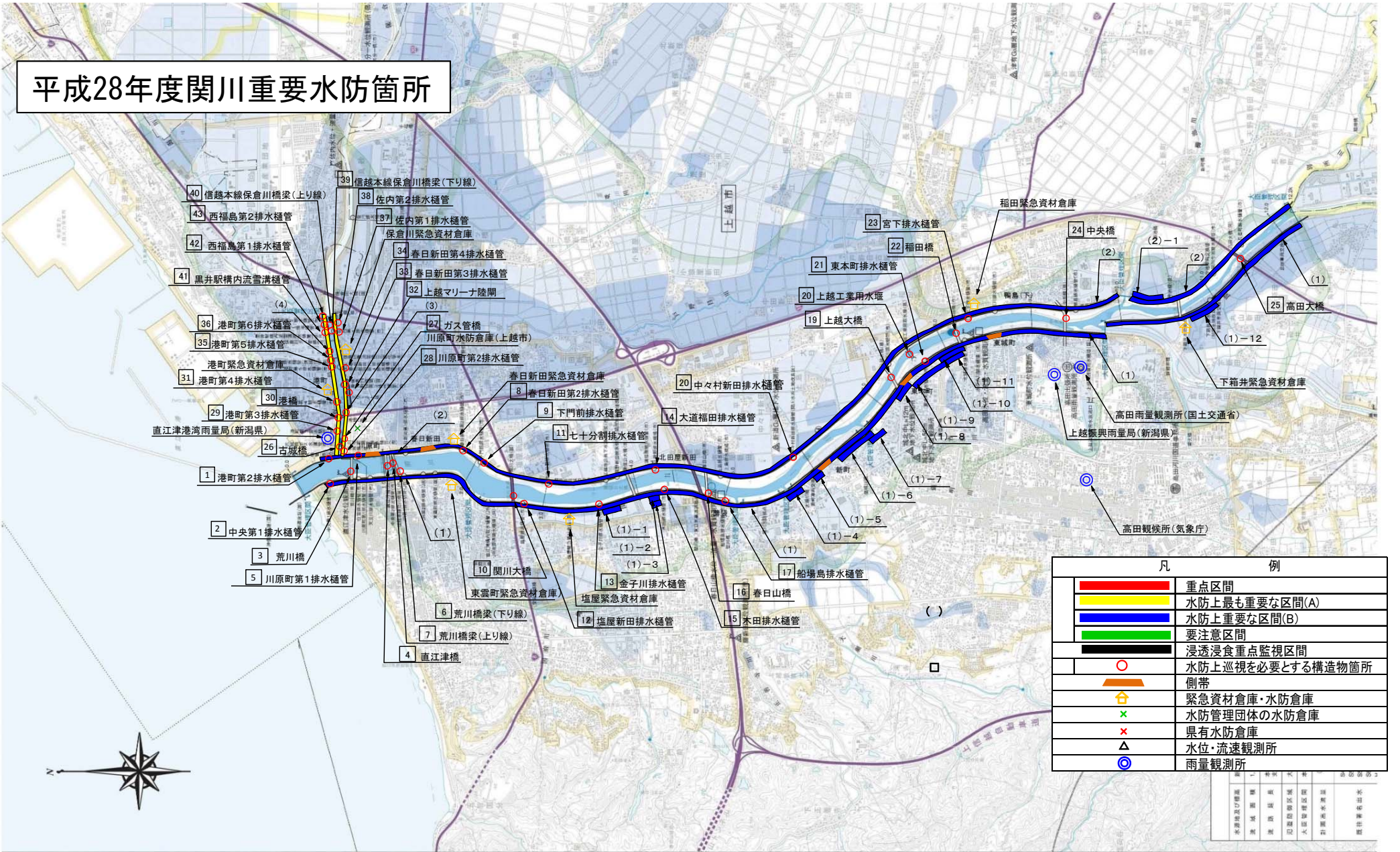
■平成28年3月時点での堤防整備状況は、計画断面堤防区間が約61%、未整備堤防区間は約39%となっている。
 ■計画断面に対して、高さや幅が不足している区間があり、未整備堤防区間の整備が必要である。



引用: 姫川河川整備計画 (H27.3)

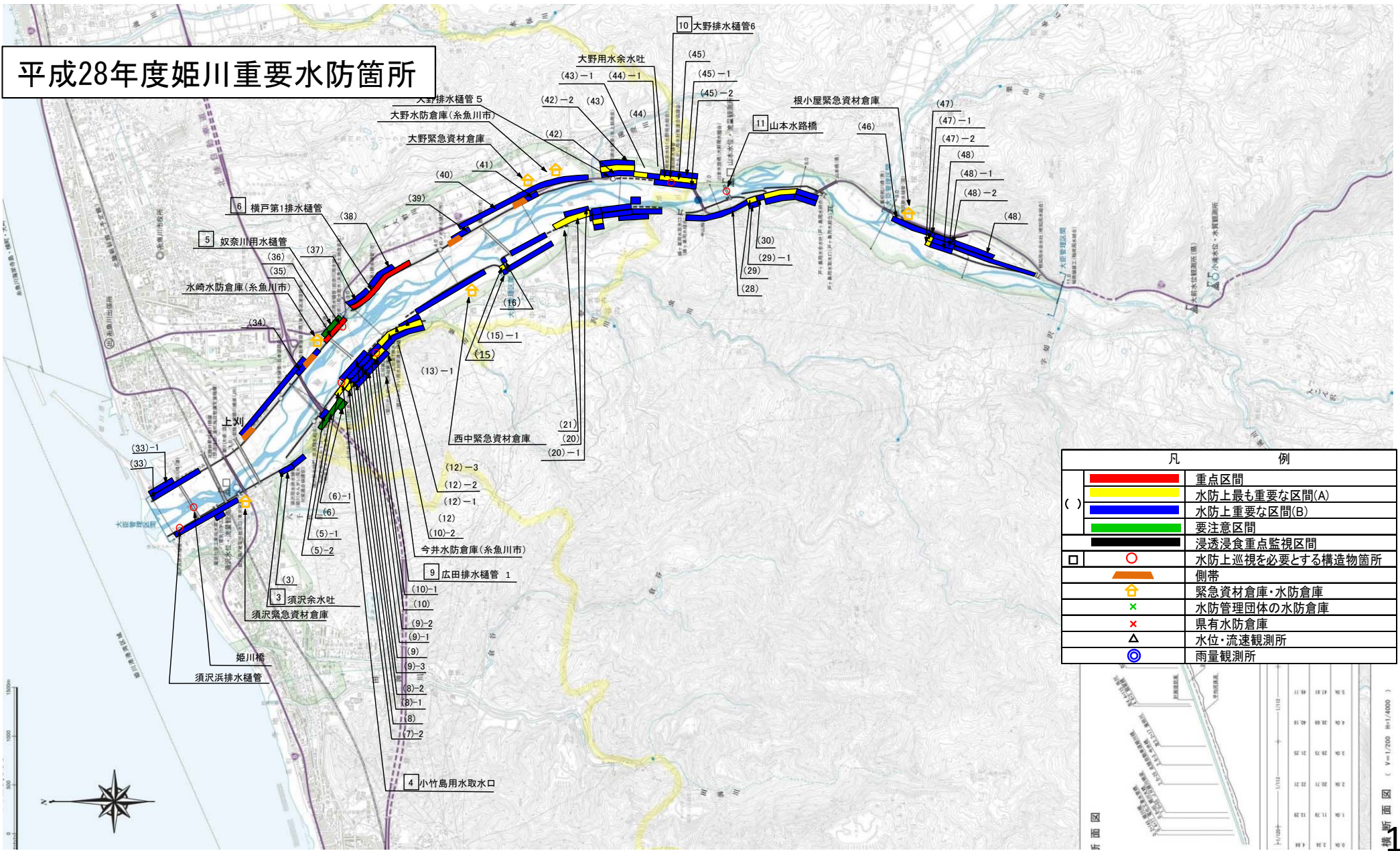
重要水防箇所(関川)

■現在の堤防の高さや幅、過去の漏水などの実績から危険箇所を早期に発見するために、あらかじめ水防、特に注意を要する区間を定め、重要度に応じて重要水防箇所としている。



重要水防箇所(姫川)

■現在の堤防の高さや幅、過去の漏水などの実績から危険箇所を早期に発見するために、あらかじめ水防、特に注意を要する区間を定め、重要度に応じて重要水防箇所としている。

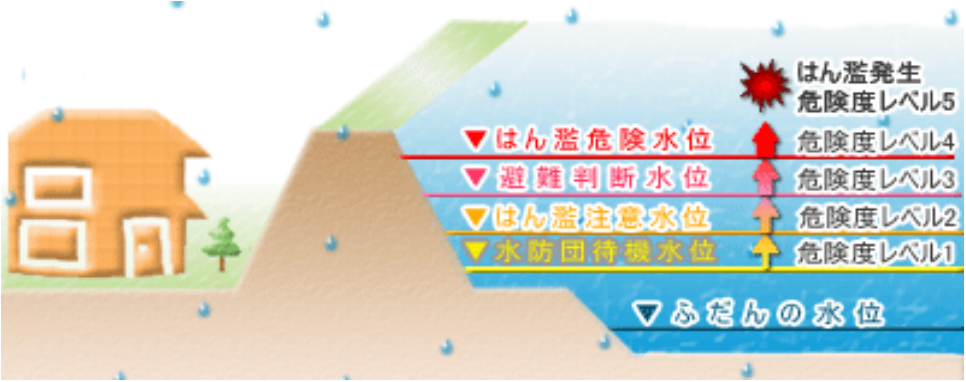
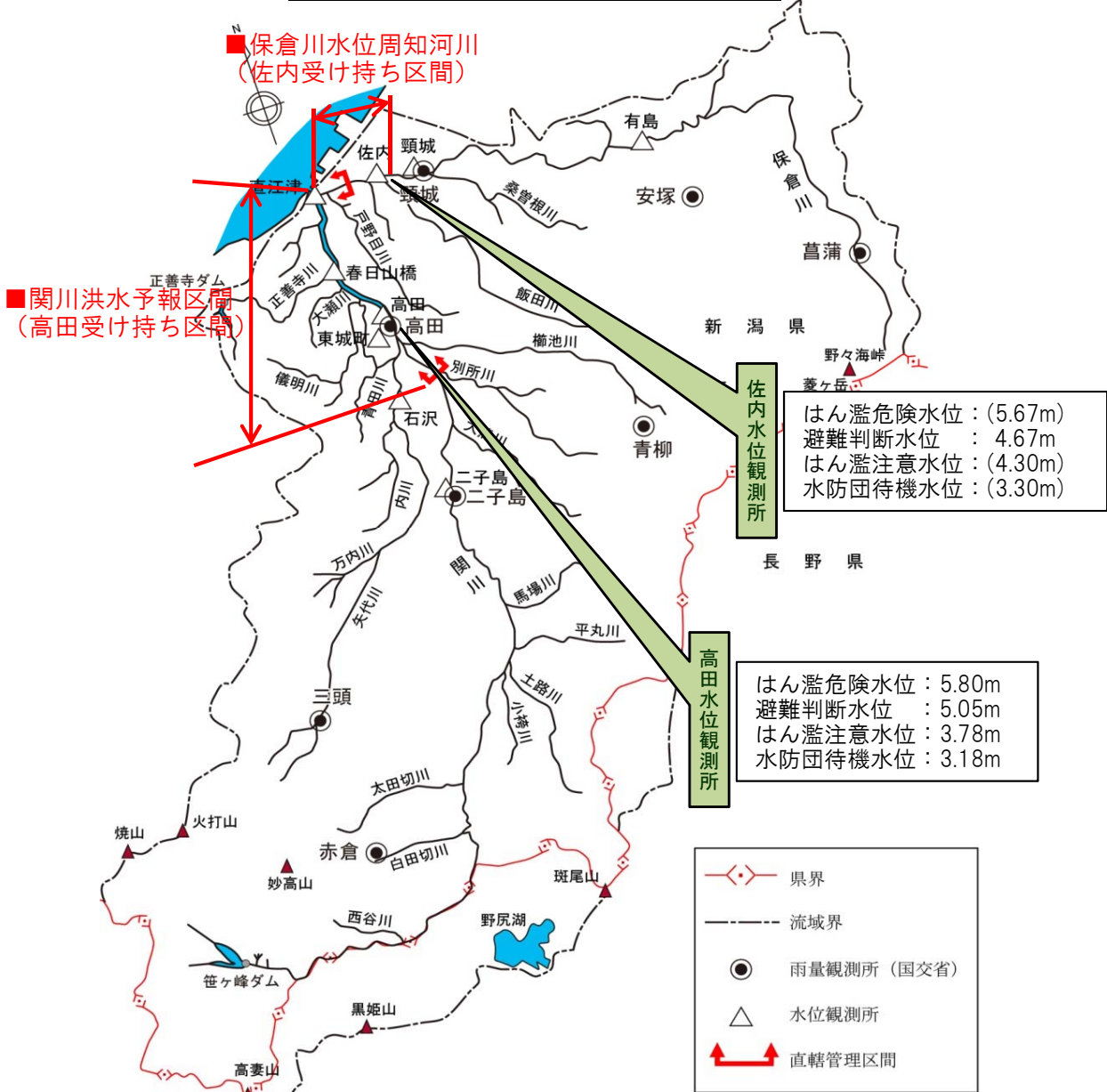


(2)現状の減災に係る取組状況等
～ 国土交通省 高田河川国道事務所 ～

洪水時の河川に関する情報提供等の内容及びタイミング(関川)

- 関川では、避難勧告の発令判断の目安となる氾濫危険情報の発表等の洪水予報を実施している。
- 洪水予報等の防災情報の持つ意味や防災情報を受けた場合の対応について共有しておく必要がある。

基準水位観測所と水防受け持ち区間



洪水予報の基準となる基準観測所水位

はん濫危険水位

市町村長による避難勧告等の発令判断の目安であり、住民の避難判断の参考になる水位。

避難判断水位

市町村長による避難準備情報の発令判断の目安であり、住民のはん濫に関する情報への注意喚起になる水位。

はん濫注意水位

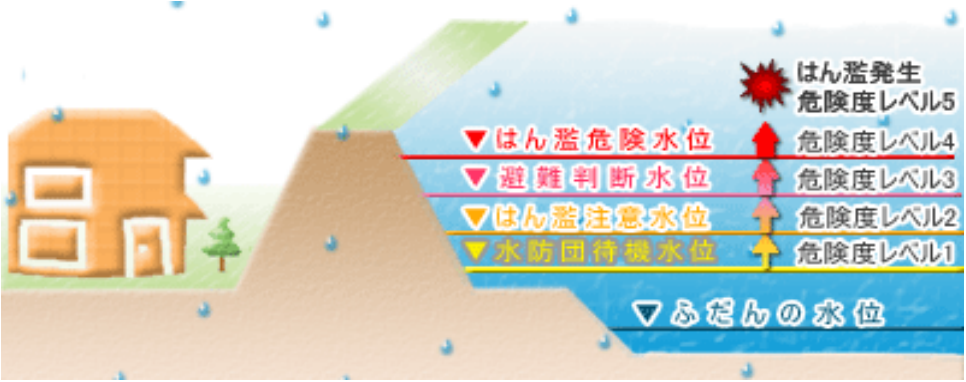
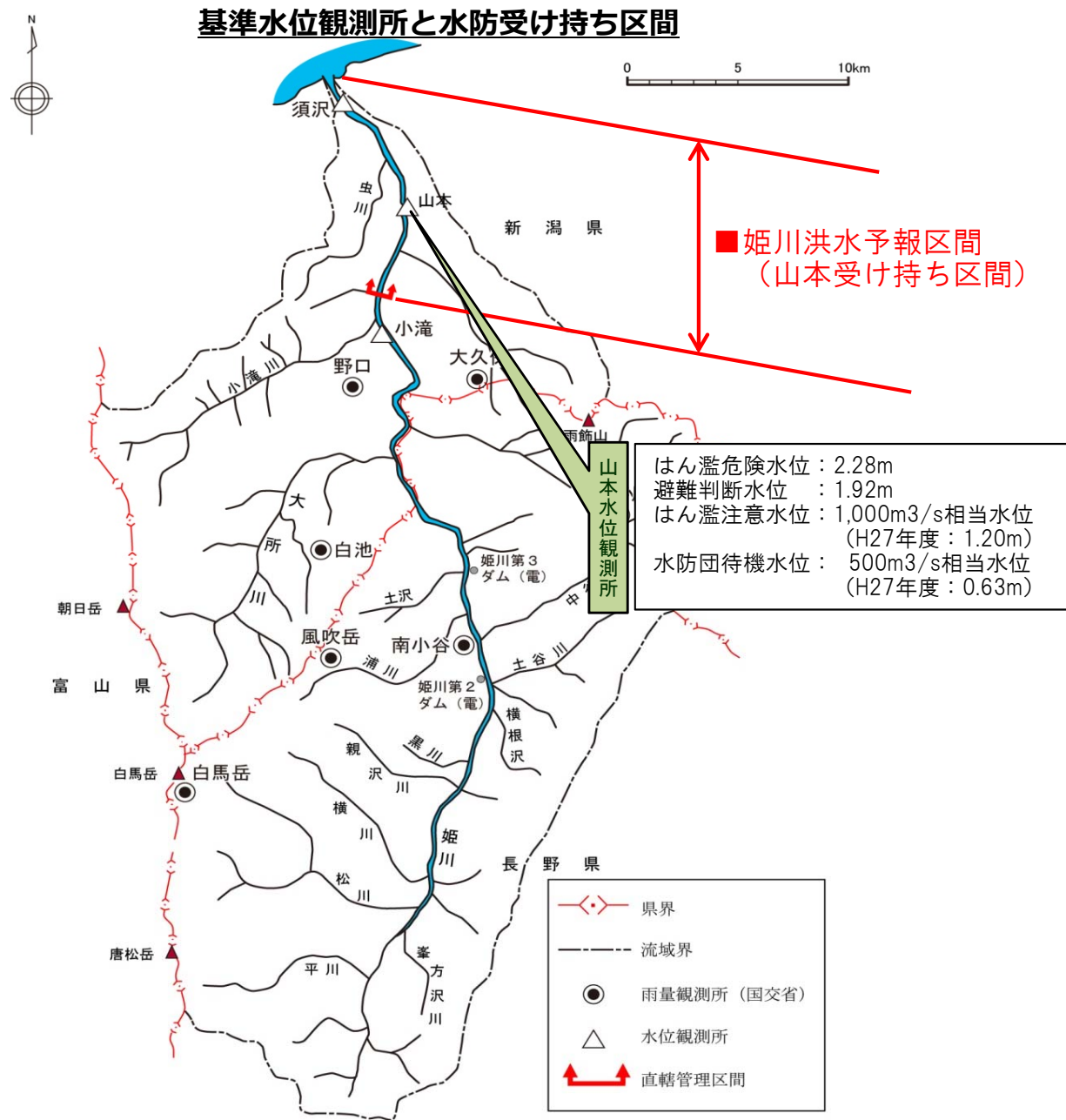
のり崩れ、洗掘、漏水などの災害が発生する危険性がある水位。水防団が出動して河川の警戒にあたる水位。

水防団待機水位

水防団が水防活動の準備を始める目安となる水位。

洪水時の河川に関する情報提供等の内容及びタイミング(姫川)

- 姫川では、避難勧告の発令判断の目安となる氾濫危険情報の発表等の洪水予報を実施している。
- 洪水予報等の防災情報の持つ意味や防災情報を受けた場合の対応について共有しておく必要がある。



洪水予報の基準となる基準観測所水位

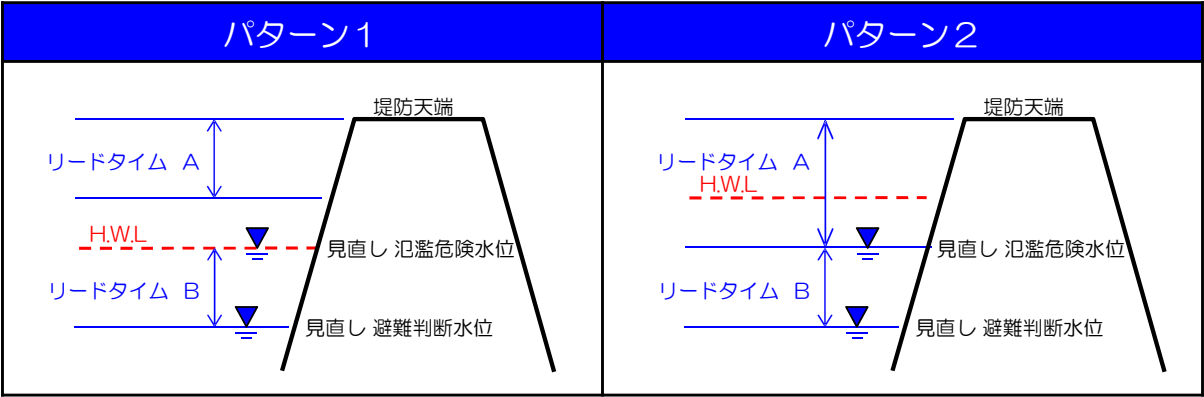
- はん濫危険水位**
- 市町村長による避難勧告等の発令判断の目安であり、住民の避難判断の参考になる水位。
- 避難判断水位**
- 市町村長による避難準備情報の発令判断の目安であり、住民のはん濫に関する情報への注意喚起になる水位。
- はん濫注意水位**
- のり崩れ、洗掘、漏水などの災害が発生する危険性がある水位。水防団が出動して河川の警戒にあたる水位。
- 水防団待機水位**
- 水防団が水防活動の準備を始める目安となる水位。

避難勧告の発令に関する基準水位（関川）

■避難時間等（リードタイム）を沿川自治体（上越市）へ確認のうえ、基準観測所の受け持ち区間の出水特性（水位上
量量）を踏まえ、平成26年度に見直しを行い、平成27年度より適用した。

リードタイムによる危険水位の見直し方について

堤防天端からリードタイムAを引いた水位と、HWLを比較してどちらか低い方を氾
濫危険水位として設定



沿川自治体へ確認したリードタイム

上越市	時間
①リードタイムA （避難に要する時間）	1時間
②リードタイムB （避難所開設までに要する時間）	1時間

見直し後の危険水位

観測所名	氾濫危険 水位			避難判断 水位			氾濫注意 水位	水位 差	水防団待 機 水位	避難所開設 までの時間 (h) * 1		避難開始か ら完了まで の時間 (h) * 2		水位上昇 (m/h)		水位上昇量の 考え方
										現行	今回	現行	今回	現行	今回	
高田観測所	①現行	②見直し 検討値	採用値	①現行	②見直し 検討値	採用値	3.78	0.60	3.18		1		1		0.67	整備計画ハイドロ の高水位部分 の平均上昇量を 採用
	6.05	5.80	5.80	5.05	5.14	5.05										
佐内観測所	①現行	②見直し 検討値	採用値	①現行	②見直し 検討値	採用値	4.20	0.90	3.30		1		1		1	基本方針ハイドロ の高水位部分 の平均上昇量を 採用
	5.67	5.96	5.67	4.67	4.96	4.67										

* 1: 避難準備情報の発表・情報伝達・避難場所の開設等に要する時間

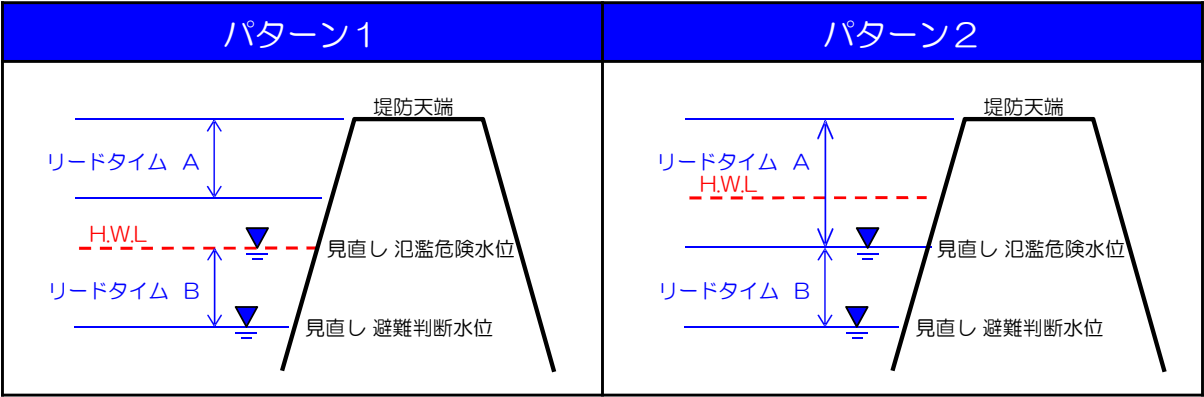
* 2: 避難勧告等の発令、避難開始から避難完了まで時間

避難勧告の発令に関する基準水位(姫川)

■避難時間等（リードタイム）を沿川自治体（糸魚川市）へ確認のうえ、基準観測所の受け持ち区間の出水特性（水位上量量）を踏まえ、平成26年度に基準水位を精査し、問題ないことからこれまでの値を継続適用している。

リードタイムによる危険水位の見直し方について

堤防天端からリードタイムAを引いた水位と、HWLを比較してどちらか低い方を氾濫危険水位として設定



沿川自治体へ確認したリードタイム

糸魚川市	時間
①リードタイムA (避難に要する時間)	2時間
②リードタイムB (避難所開設までに要する時間)	0.5時間

精査後の危険水位

観測所名	氾濫危険水位			避難判断水位			避難所開設までの時間 (h) * 1		避難開始から完了までの時間 (h) * 2		水位上昇 (m/h)		水位上昇量の考え方
							現行	今回	現行	今回	現行	今回	
山本観測所	①現行	②見直し検討値	採用値	①現行	②見直し検討値	採用値	—	0.5	—	2	—	0.7	基本方針ハイドロの高水位部分の平均上昇量を採用
	2.28	2.34	2.28	1.92	1.99	1.92m							

※1：避難準備情報の発表・情報伝達・避難場所の開設等に要する時間

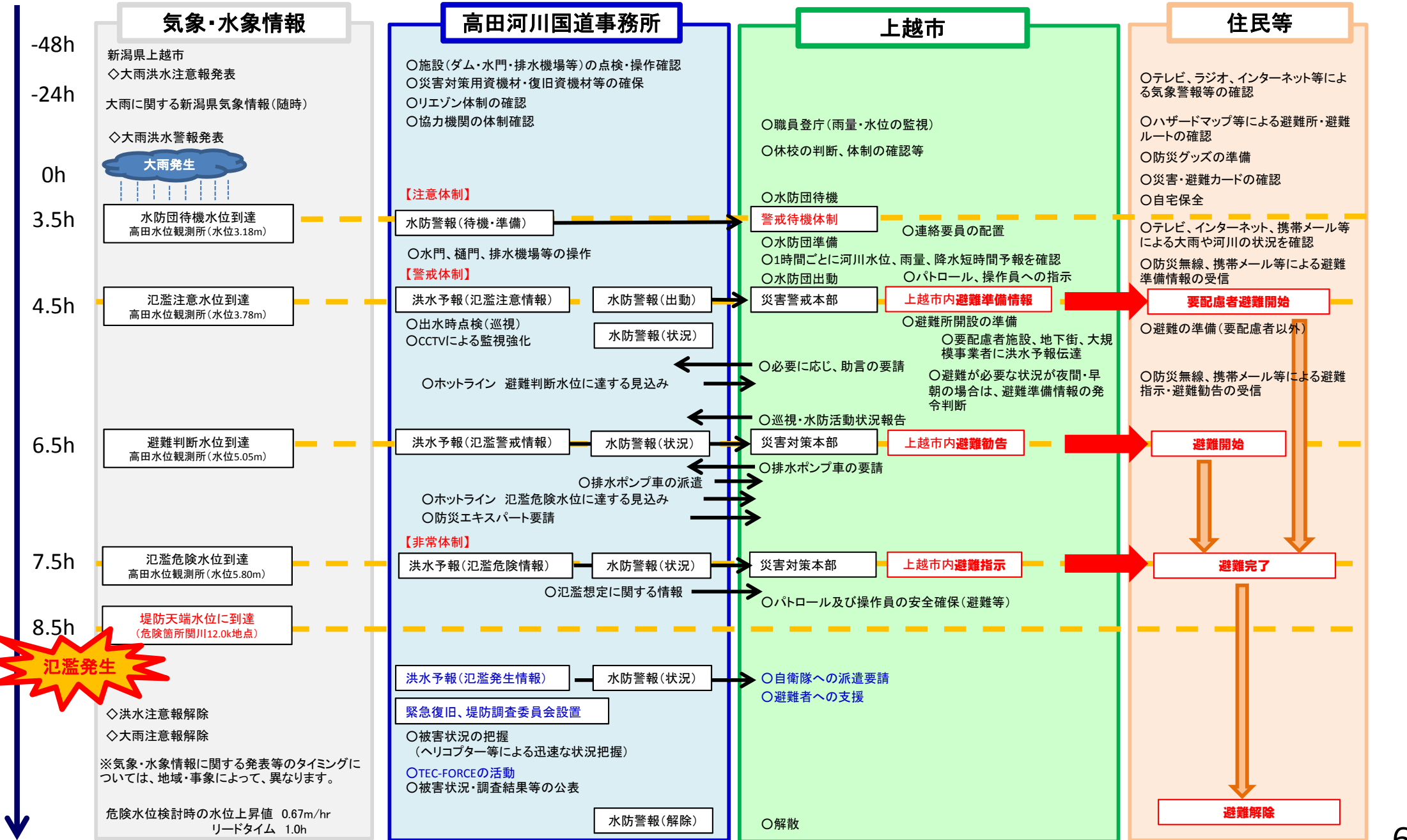
※2：避難勧告等の発令、避難開始から避難完了まで時間

■ 高田河川国道事務所では、洪水時において、避難勧告等の発令判断の目安となるよう、予め定められた「基準水位観測所」における水位の情報を沿川自治体へ提供している。

レベル	水位など	基準水位観測所における設定水位の意味 (危険な箇所を設定した以下の水位を、基準水位観測所地点の水位に置き換えて設定)
5	氾濫の発生	【氾濫危険水位】(特別警戒水位) ・市町村長の 避難勧告等の発令判断の目安 ・住民の避難判断の参考になる水位 (水位設定の考え方) 堤防等の構造の基準となる水位(計画高水位)若しくは、リードタイム(避難完了までに、避難勧告の発令、情報伝達及び避難等に要する時間)から設定される水位のいずれか低い水位
4 (危険)	(特別警戒水位) 氾濫危険水位	
3 (警戒)	避難判断水位	
2 (注意)	氾濫注意水位	【避難判断水位】 ・市町村長の 避難準備情報等の発令判断の目安 ・住民の氾濫に関する情報への注意喚起
1	(警戒水位)	【氾濫注意水位】 ・水防団の出動の目安

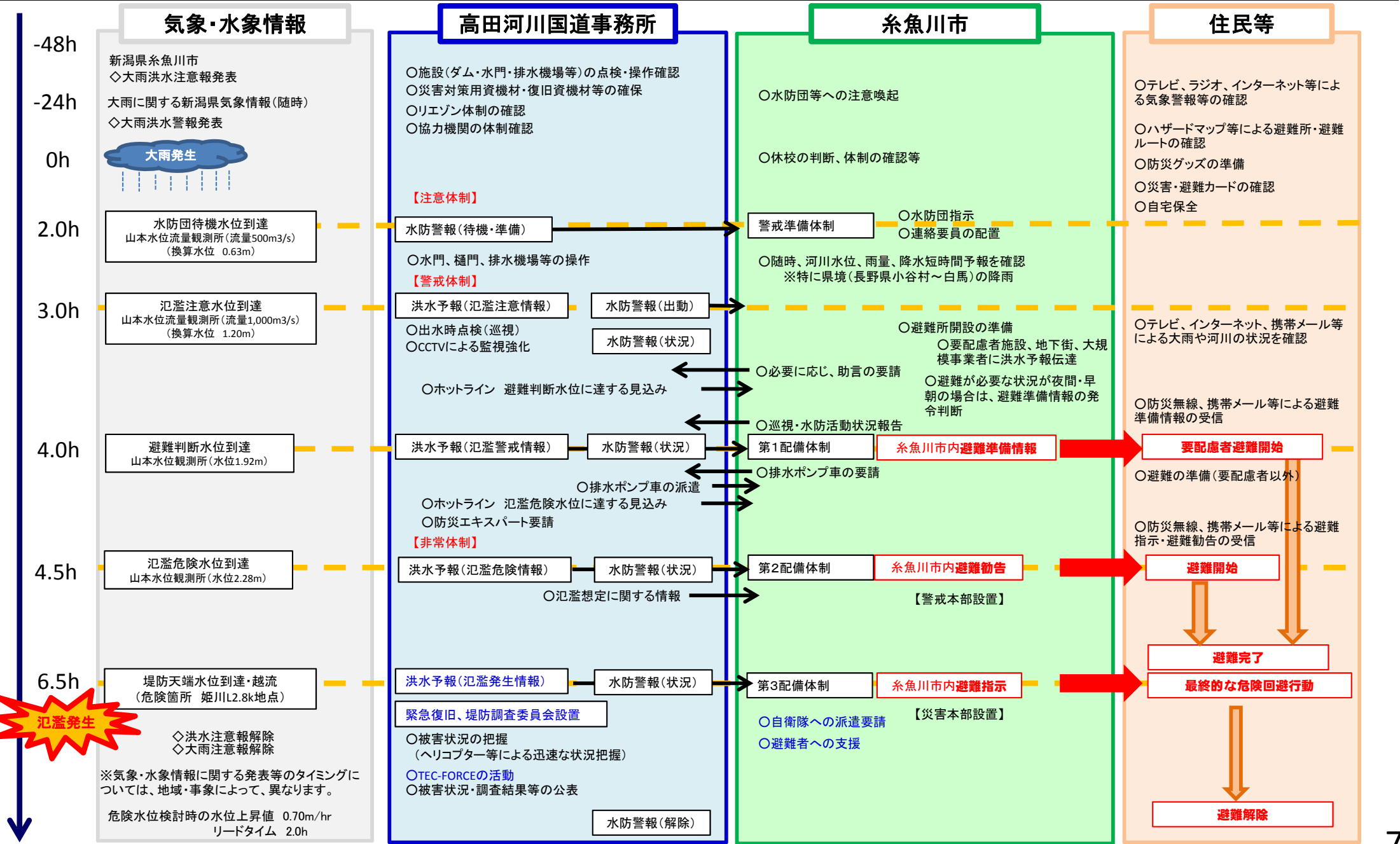
避難勧告の発令基準(関川)

■高田河川国道事務所関川管内における上越市のタイムラインを策定済みである。



避難勧告の発令基準(姫川)

■高田河川国道事務所姫川管内における糸魚川市のタイムラインを策定済みである。

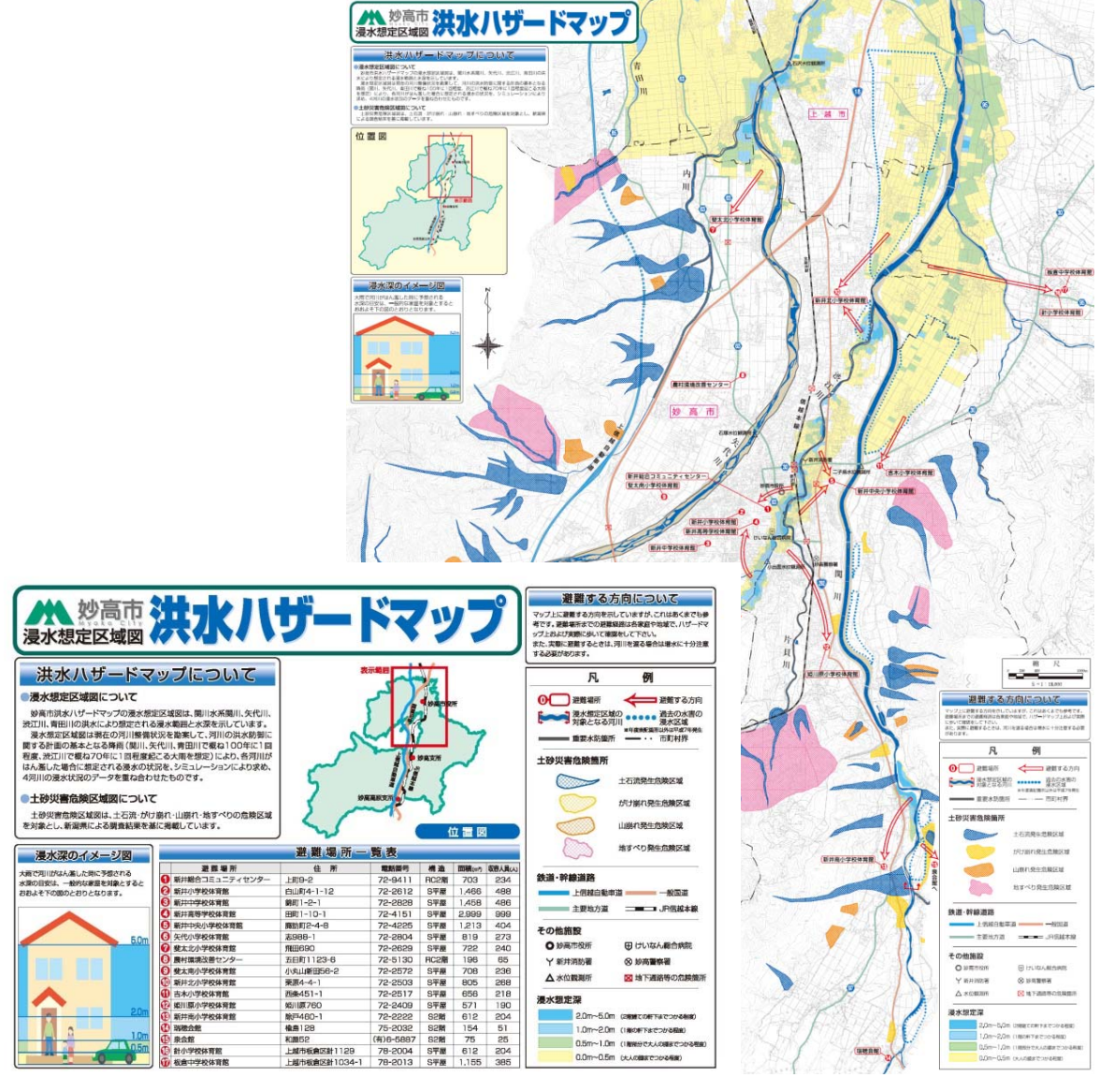


避難場所・避難経路(関川)

■上越市及び妙高市は、市町村地域防災計画において、避難場所及び避難経路を設定している。
■関川は、過去20年以上において、浸水被害が発生していないため、再度、避難場所や避難方法について周知を徹底する必要がある。



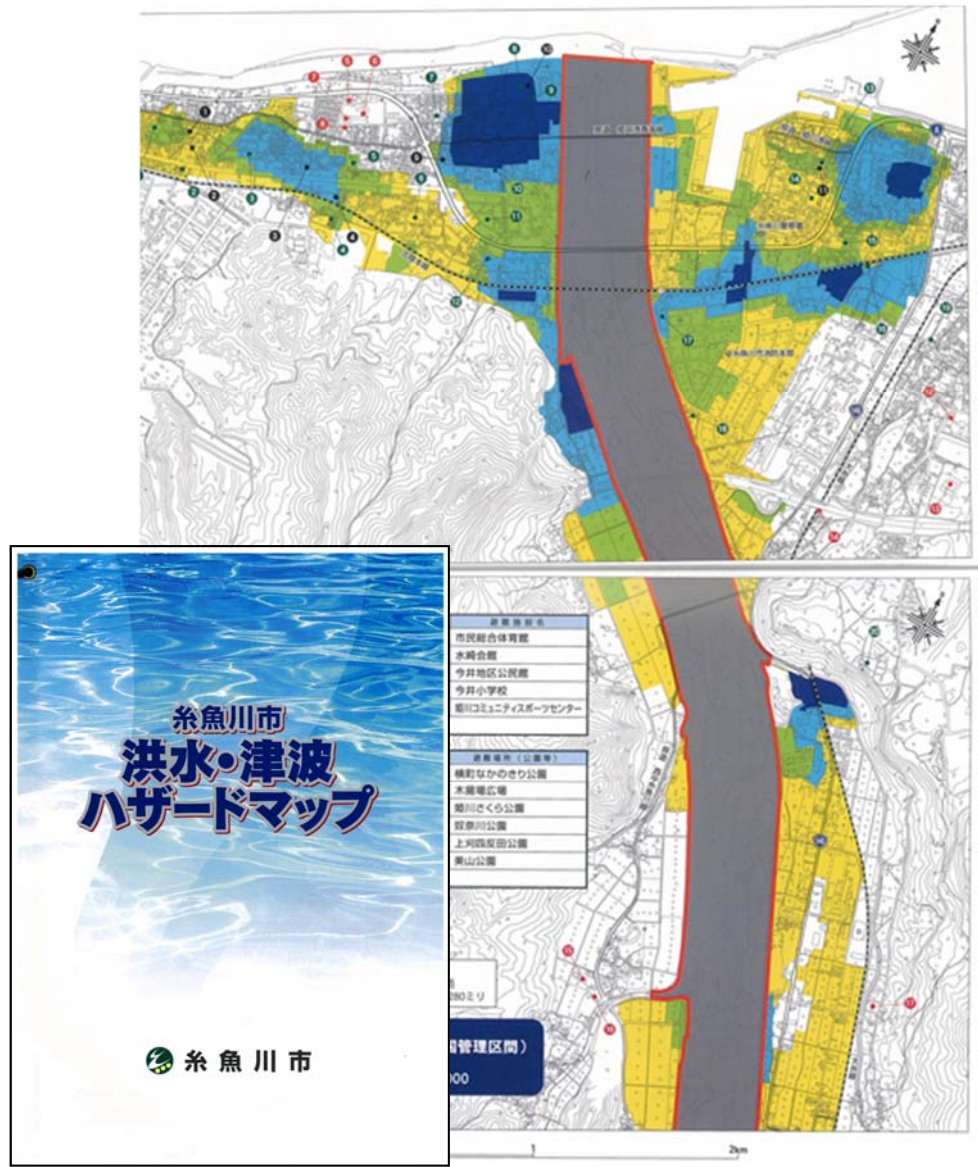
上越市ハザードマップ (平成26年)



妙高市ハザードマップ (平成24年)

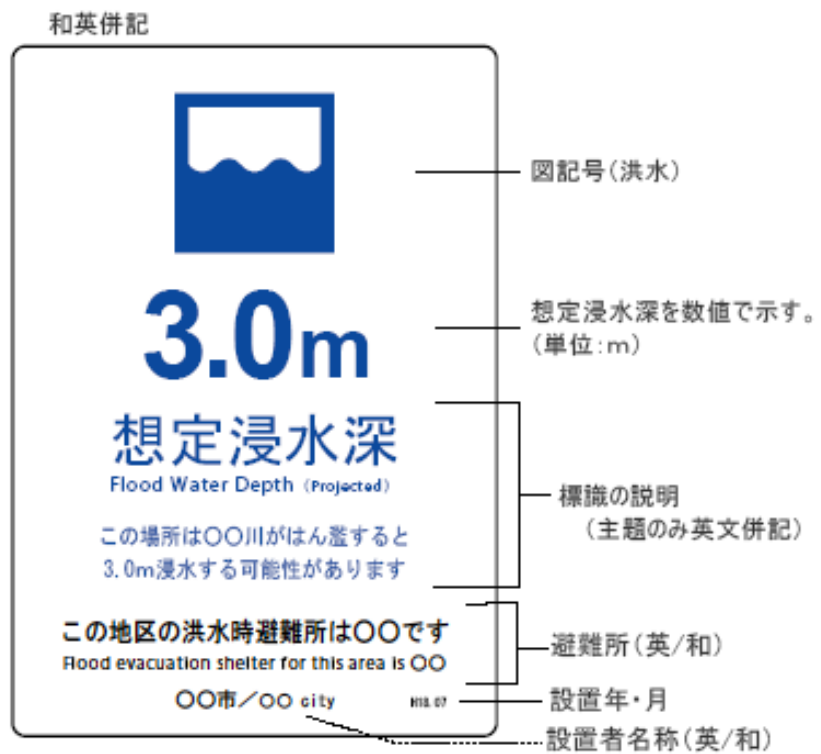
避難場所・避難経路(姫川)

- 糸魚川市は、市町村地域防災計画において、避難場所及び避難経路を設定している。
- 姫川は、過去20年以上において、浸水被害が発生していないため、再度、避難場所や避難方法について周知を徹底する必要がある。



糸魚川市洪水ハザードマップ（平成22年）

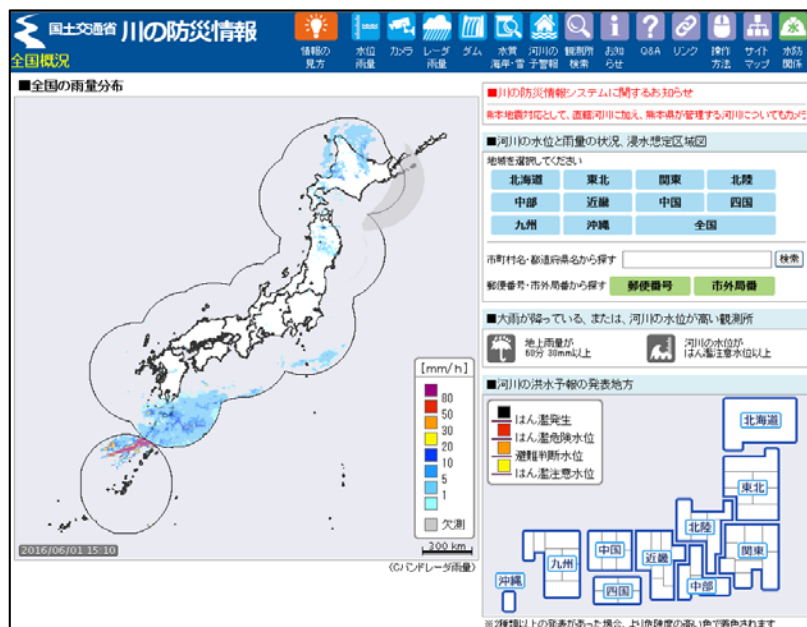
■糸魚川市では平成22年に「糸魚川市洪水・津波ハザードマップ」を作成しているが、更なる普及、浸透及び危機意識の醸成と洪水時の避難所等の認知度の向上を図ることを目的に、自らが生活する地域の洪水の危険性を実感できるよう、ハザードマップを活用した訓練や居住地域をまるごとハザードマップと見立てて、生活空間である「まちなか」に水防災にかかわる各種情報を表示する「まるごとまちごとハザードマップ」の整備している。



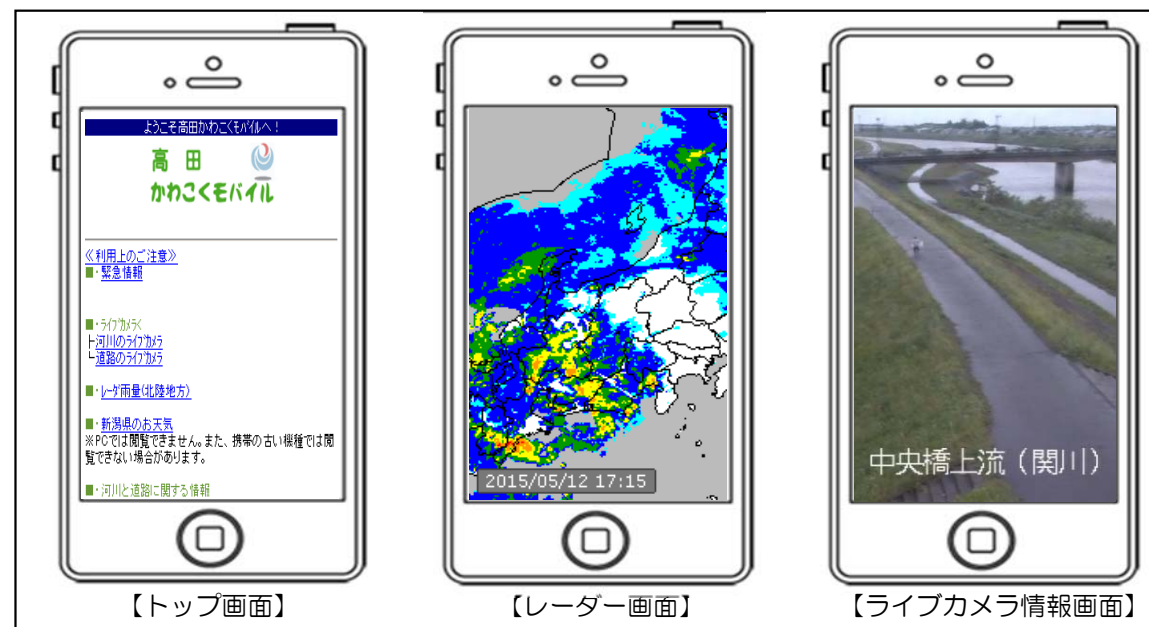
洪水標識版の例
(まるごとまちごとハザードマップ)

住民等への情報伝達の方法

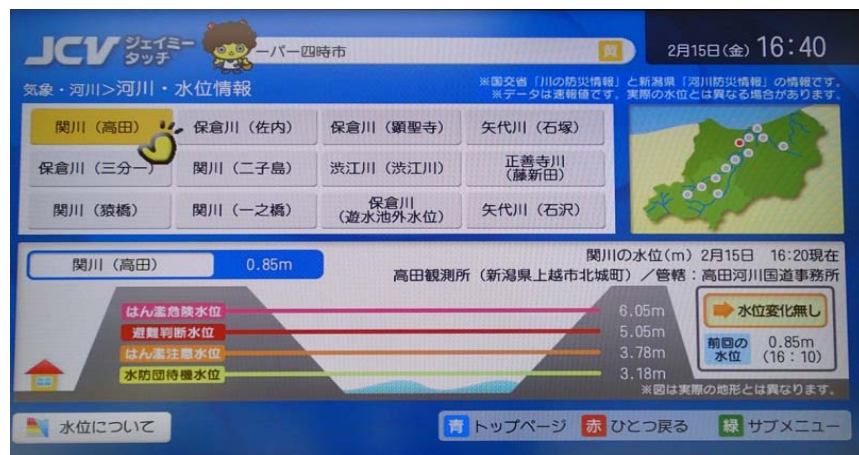
- 河川水位、洪水予報、ライブ映像等の情報は、ホームページ、携帯電話用ホームページ、ケーブルテレビ、デジタルテレビのデータ放送など多様化する情報入手ツールに合わせて提供している。
- 今後も、住民ニーズを把握し、適切な情報伝達方法を検討していく必要がある。



川の防災情報（ホームページ）による水位、雨量等の情報提供



携帯電話用サイト（高田かわこくモバイル）による水位、雨量等の情報提供



JCV（上越ケーブルビジョン）による情報提供



NHKデータ放送による水位、雨量等の情報提供

- 出水時には、水防団、河川管理者がそれぞれ河川巡視を実施している。
- そのほか、平常時の河川巡視や、出水後の河川巡視などによりフォローアップしている。

出水時の河川巡視



【関川左岸 関川大橋付近 H25. 9】



【関川左岸 矢代川合流点付近 H25. 9】



【姫川右岸 姫川大橋付近 H25. 9】



【姫川右岸 大野地区 H25. 9】

平常時及び出水後の河川巡視



【出水期前（関川左岸 東雲町地区）】



【出水後（関川左岸 高田大橋上流付近）】

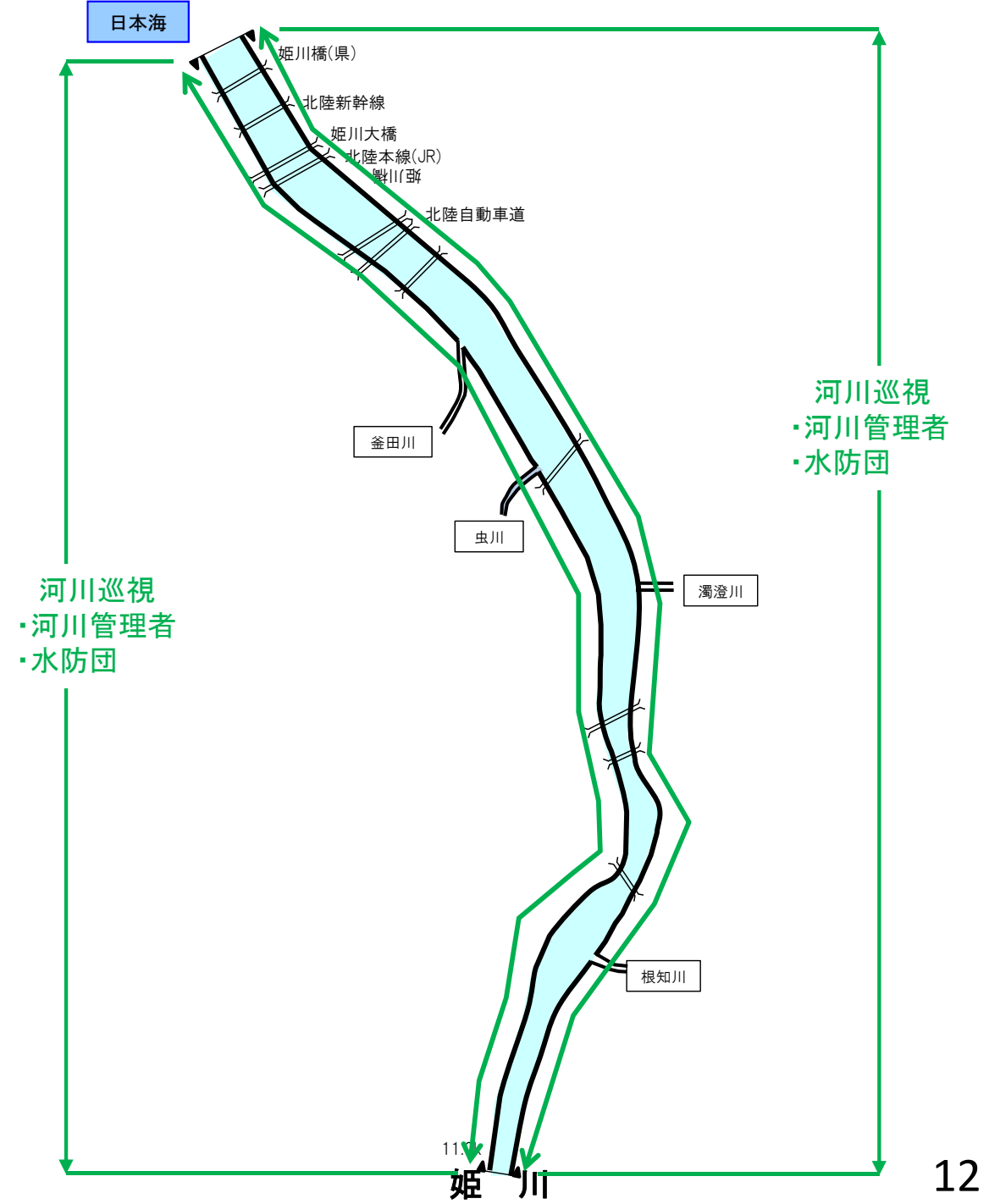
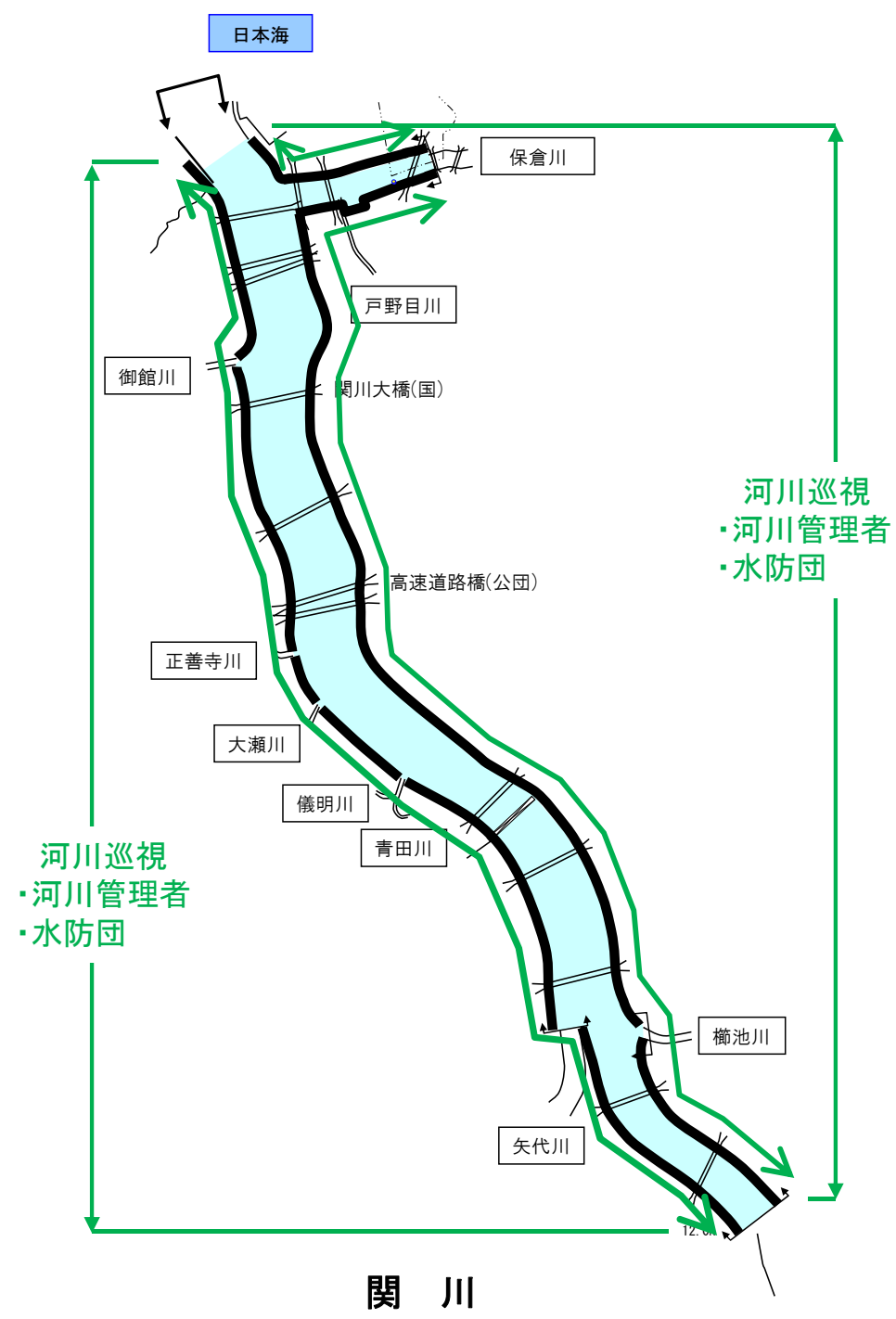


【出水期前（姫川左岸 西川原地区）】



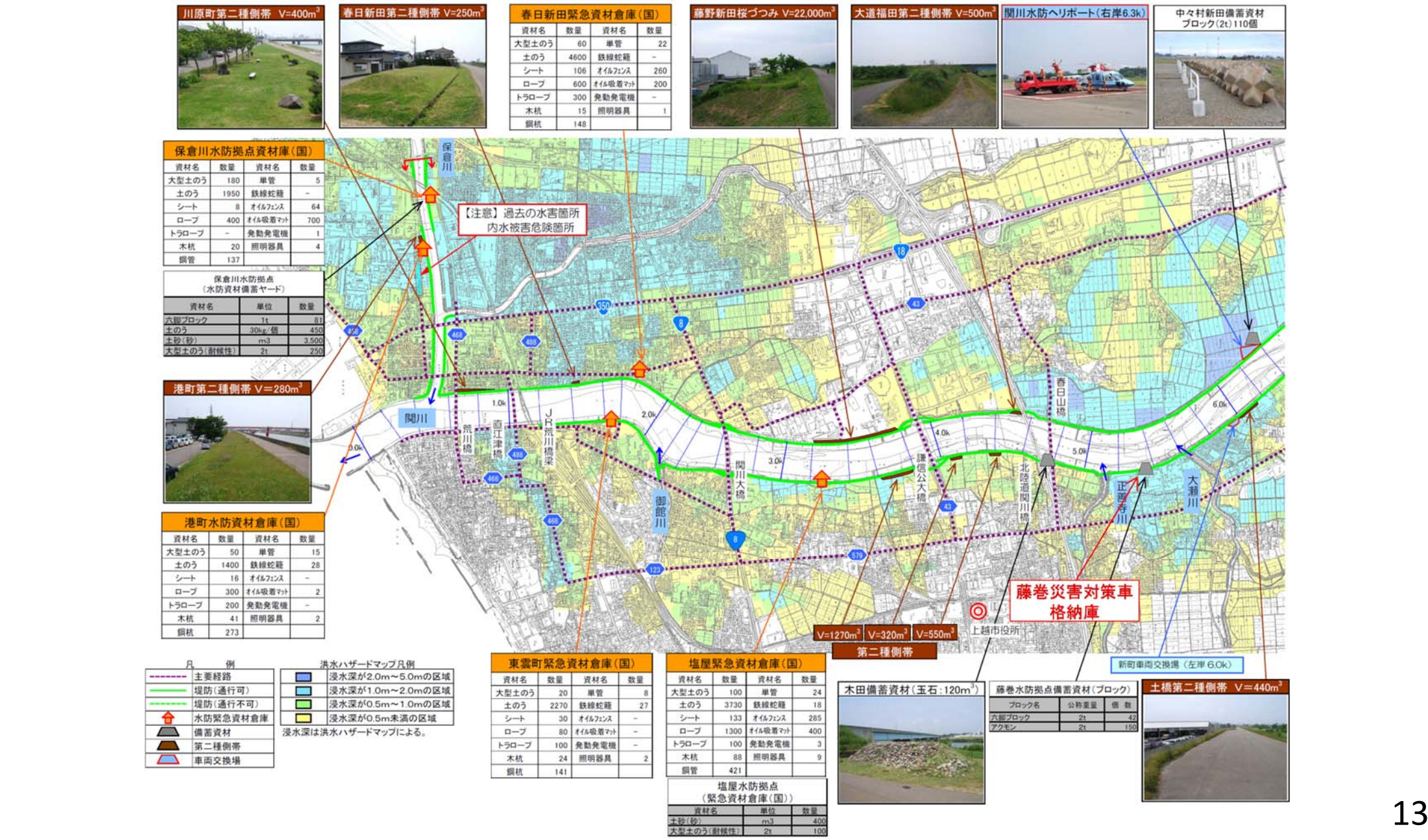
【出水後（姫川左岸 山本地区）】

河川の巡視(関川・姫川直轄区間巡視範囲)



水防資機材の配置状況(関川下流部)

■水防資機材については、河川管理者が水防倉庫に備蓄しているほか、倉庫に入らない大型ブロック等については、沿川沿いの用地に備蓄している。



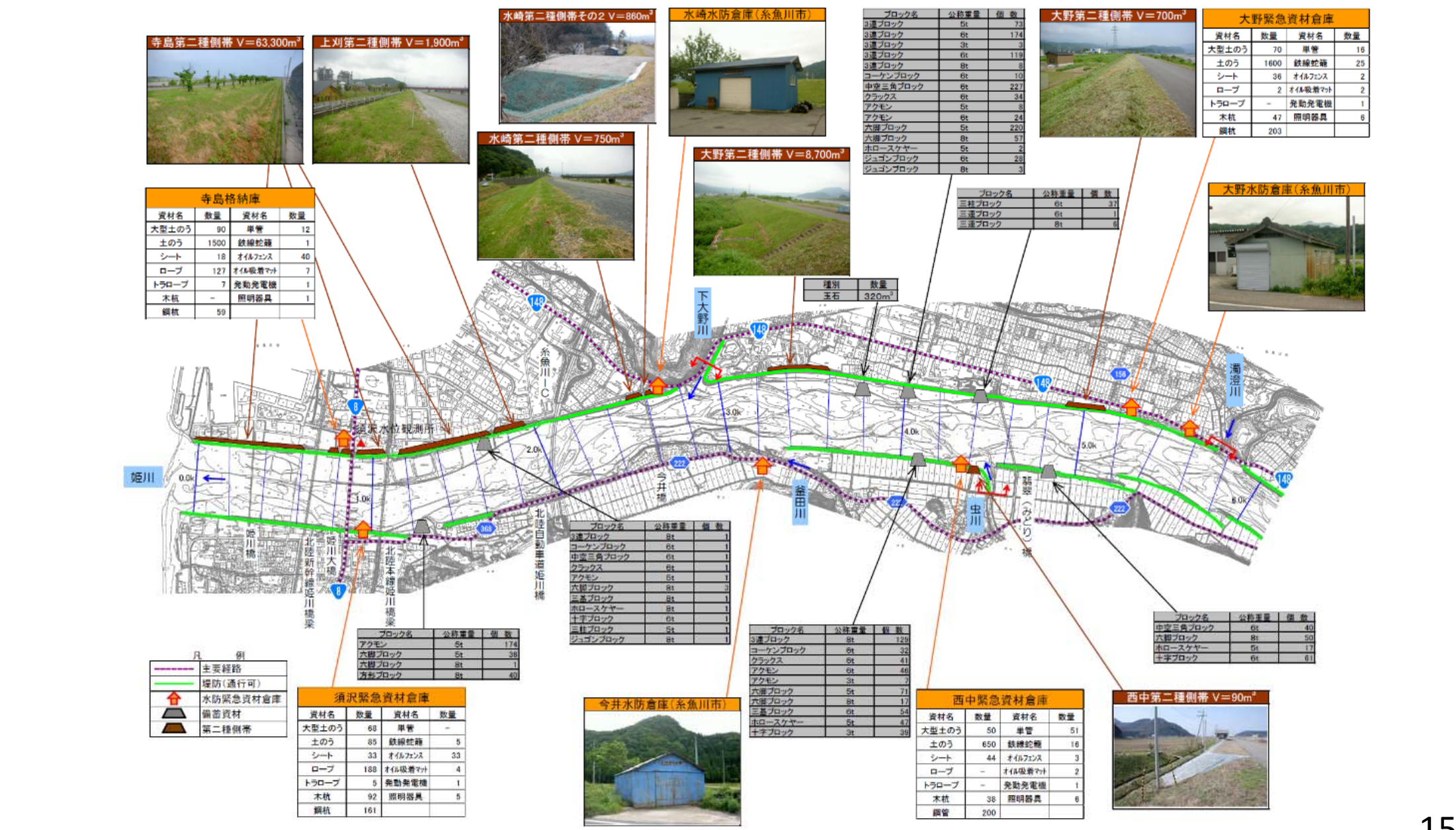
水防資機材の配置状況(関川上流部)

■水防資機材については、河川管理者が水防倉庫に備蓄しているほか、倉庫に入らない大型ブロック等については、沿川沿いの用地に備蓄している。



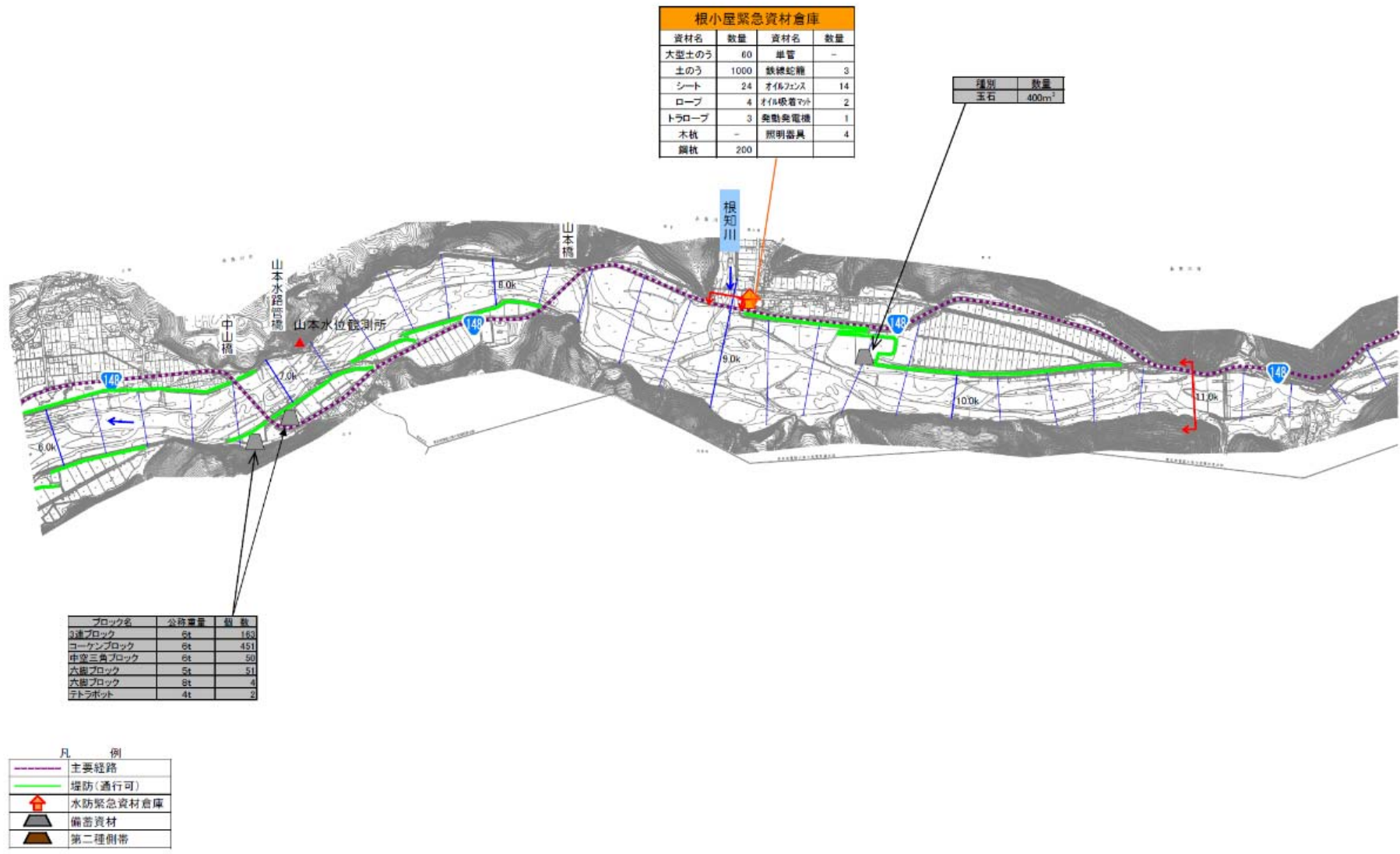
水防資機材の配置状況(姫川下流部)

■水防資機材については、河川管理者が水防倉庫に備蓄しているほか、倉庫に入らない大型ブロック等については、沿川沿いの用地に備蓄している。



水防資機材の配置状況(姫川上流部)

■ 水防資機材については、河川管理者が水防倉庫に備蓄しているほか、倉庫に入らない大型ブロック等については、沿川沿いの用地に備蓄している。



防災拠点等の整備状況

■高田河川国道事務所では、北陸地方整備局管内ほか、広域的な災害活動の支援拠点として、上越防災支援センターを整備している。

■関川では、各水防倉庫のほか、水防ヘリポートや藤巻災害対策車格納庫などの防災拠点を整備している。



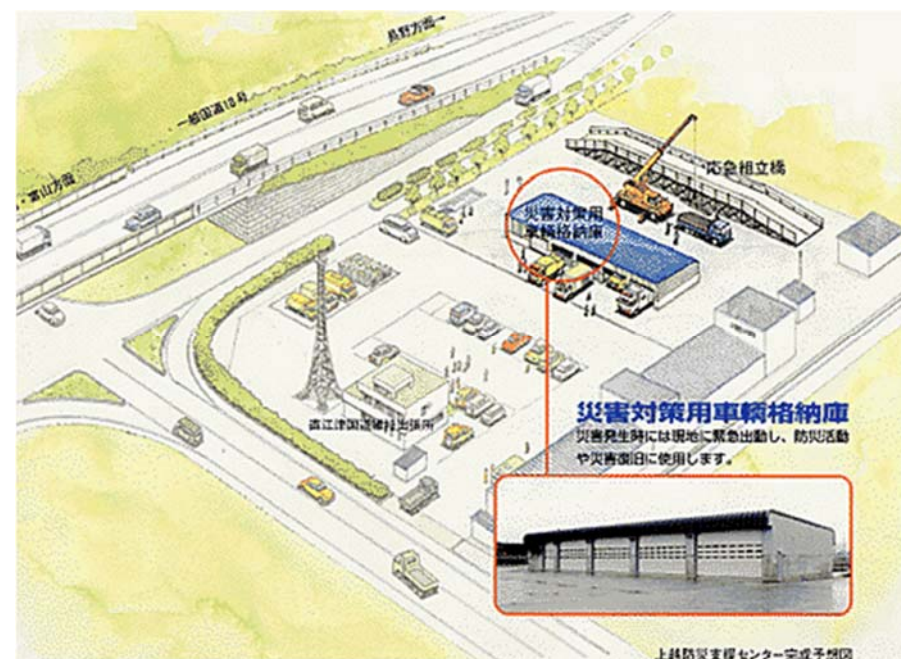
【藤巻災害対策車格納庫】



【関川防災ヘリポート（右岸6.3k）】

■上越防災支援センター

上越防災支援センターは、北陸地方整備局管内の防災センターや、東北、関東、中部、近畿地方の各防災センターと連携しながら広域的な防災活動を行うとともに、上越地域における水防拠点のほか、地域防災の拠点として活用している。



排水施設、排水資機材の操作・運用

■排水ポンプ車や照明車等の災害対策車両・機器は平常時から定期的な保守点検を行うとともに、機械を扱う職員等への教育体制も確保し、常時、災害発生による出動体制を確保している。

北陸地方整備局災害対策機械配置状況（平成27年末）

排水ポンプ車数: 40台

北陸地方整備局 災害対策用機械一覧表

H27年度末

⑨富山防災センター
(北陸技術事務所 富山出張所)

機 械 名	規 格	機 械 番 号	備 考
対策本部車	拡幅多様設置型	25-4403	
衛星通信車	—	9-10-3	
排水ポンプ車	30m ³ /min	19-4413	7.5m ³ /min × 4台
排水ポンプ車	30m ³ /min	20-4412	7.5m ³ /min × 4台
排水ポンプ車	60m ³ /min	22-4405	超軽量高揚程 5.0m ³ /min × 12台
排水ポンプ車	60m ³ /min級ポンプ 直列操縦20m	25-4406	5.0m ³ /min × 12台
照明車	2kW × 4灯	10-1408	可搬式照明装置搭載
照明車	2kW × 6灯 2柱式	19-4414	
照明車	2kW × 6灯 20m級	22-4404	
待機支援車	支援用バス型	11-10-2	
待機支援車	資材運搬用	11-10-1	
待機支援車	支援用バス型	21-4412	9床式
情報収集車	先遣用	11-1411	
橋梁点検車	バケット式	19-1406	
橋梁点検車	バケット式	20-1407	
応急組立橋	6 × 40m	41-1505	
遠隔操縦対応型 バックホウ	1.4m ³ 級	11- 5-3	
災害対策用人員輸送車	26人乗り	8-10-5	

⑩富山河川国道事務所

機 械 名	規 格	機 械 番 号	備 考
排水ポンプ車	30m ³ /min	11-4411	7.5m ³ /min × 4台
排水ポンプ車	30m ³ /min	23-4413	7.5m ³ /min × 4台
排水ポンプ車	30m ³ /min	18-4408	7.5m ³ /min × 4台
照明車	2kW × 6灯 2柱式	11-4419	
照明車	2kW × 6灯 2柱式	18-4405	
照明車	2kW × 6灯 2柱式	19-4408	

⑪金沢河川国道事務所

機 械 名	規 格	機 械 番 号	備 考
排水ポンプ車	30m ³ /min	11-4413	7.5m ³ /min × 4台
排水ポンプ車	30m ³ /min	19-4412	7.5m ³ /min × 4台
排水ポンプ車	30m ³ /min	20-4408	7.5m ³ /min × 4台
排水ポンプ車	30m ³ /min	21-4411	7.5m ³ /min × 4台
照明車	2kW × 6灯 2柱式	11-4420	
照明車	2kW × 6灯 2柱式	20-4405	
照明車	2kW × 6灯 2柱式	21-4407	
照明車	2kW × 6灯 2柱式	22-4403	
遠隔操縦対応型 ラフタークレーン	50t吊	14- 5-3	

⑦上越防災支援センター
(高田河川国道事務所)

機 械 名	規 格	機 械 番 号	備 考
対策本部車	拡幅型	22-10-4	
衛星通信車	移動衛星通信局	22-10-1	
排水ポンプ車	60m ³ /min	21-4408	超軽量高揚程 5.0m ³ /min × 12台
排水ポンプ車	60m ³ /min	22-4406	超軽量高揚程 5.0m ³ /min × 12台
排水ポンプ車	60m ³ /min級ポンプ 直列操縦20m	25-4407	5.0m ³ /min × 12台
照明車	2kW × 6灯	10-4412	ブーム式
照明車	2kW × 6灯 2柱式	22-4401	
待機支援車	支援用バス型	22-10-2	
待機支援車	排水ポンプ支援用	10-10-2	
情報収集車	先遣用	22-10-3	
応急組立橋	7 × 50m 歩道付	11- 5-1	
遠隔操縦対応型 バックホウ	1.4m ³ 級	12- 5-1	
災害対策用人員輸送車	27人乗り	6-10-144	

⑧千曲河川国道事務所

機 械 名	規 格	機 械 番 号	備 考
排水ポンプ車	30m ³ /min	11-4408	7.5m ³ /min × 4台
排水ポンプ車	30m ³ /min	11-4409	7.5m ³ /min × 4台
排水ポンプ車	30m ³ /min	11-4410	7.5m ³ /min × 4台
排水ポンプ車	30m ³ /min	18-4413	7.5m ³ /min × 4台
排水ポンプ車	30m ³ /min	20-4410	7.5m ³ /min × 4台
排水ポンプ車	30m ³ /min	21-4410	7.5m ³ /min × 4台
照明車	2kW × 6灯 2柱式	11-4417	
照明車	2kW × 6灯 2柱式	17-4403	
照明車	2kW × 6灯 2柱式	18-4406	
照明車	2kW × 6灯 2柱式	19-4409	
照明車	2kW × 6灯 2柱式	20-4407	
照明車	2kW × 6灯 2柱式	21-4406	

⑤信濃川下流河川事務所

機 械 名	規 格	機 械 番 号	備 考
排水ポンプ車	30m ³ /min	23-4411	7.5m ³ /min × 4台
排水ポンプ車	30m ³ /min	23-4412	7.5m ³ /min × 4台
照明車	2kW × 6灯 2柱式	12-4408	
照明車	2kW × 6灯 2柱式	19-4407	

⑥信濃川河川事務所

機 械 名	規 格	機 械 番 号	備 考
排水ポンプ車	30m ³ /min	10-4405	7.5m ³ /min × 4台
排水ポンプ車	30m ³ /min	10-4406	7.5m ³ /min × 4台
排水ポンプ車	30m ³ /min	18-4407	7.5m ³ /min × 4台
排水ポンプ車	30m ³ /min	22-4407	7.5m ³ /min × 4台
排水ポンプ車	30m ³ /min	27-4408	7.5m ³ /min × 4台
照明車	2kW × 6灯 2柱式	11-4416	
照明車	2kW × 6灯 2柱式	17-4401	
照明車	2kW × 6灯 2柱式	18-4404	
照明車	2kW × 6灯 2柱式	21-4404	

⑦高田河川国道事務所

機 械 名	規 格	機 械 番 号	備 考
排水ポンプ車	30m ³ /min	10-4407	7.5m ³ /min × 4台
排水ポンプ車	30m ³ /min	10-4408	7.5m ³ /min × 4台
排水ポンプ車	30m ³ /min	19-4411	7.5m ³ /min × 4台
排水ポンプ車	30m ³ /min	21-4409	7.5m ³ /min × 4台
照明車	2kW × 6灯 2柱式	11-4418	
照明車	2kW × 6灯 2柱式	20-4404	
照明車	2kW × 6灯 2柱式	21-4405	
照明車	2kW × 6灯 2柱式	22-4402	

①阿賀川河川事務所

機 械 名	規 格	機 械 番 号	備 考
排水ポンプ車	30m ³ /min	23-4409	7.5m ³ /min × 4台
排水ポンプ車	30m ³ /min	15-4401	超軽量 5.5m ³ /min × 6台
排水ポンプ車	30m ³ /min	20-4409	7.5m ³ /min × 4台
照明車	2kW × 6灯 2柱式	11-4414	
照明車	2kW × 6灯 2柱式	17-4402	
照明車	2kW × 6灯 2柱式	20-4406	

②阿賀野川河川事務所

機 械 名	規 格	機 械 番 号	備 考
排水ポンプ車	30m ³ /min	23-4410	7.5m ³ /min × 4台
照明車	2kW × 6灯 2柱式	11-4415	

③新潟防災センター
(北陸技術事務所)

機 械 名	規 格	機 械 番 号	備 考
対策本部車	拡幅型	23-4408	
対策本部車	拡幅多様設置型	25-4402	
衛星通信車	—	8-2-41	
衛星通信車	—	26-4412	
R-COSMOS 通信車	—	12-10-3	
排水ポンプ車	30m ³ /min	18-4410	7.5m ³ /min × 4台
排水ポンプ車	30m ³ /min	20-4411	7.5m ³ /min × 4台
排水ポンプ車	60m ³ /min級ポンプ 直列操縦20m	25-4404	5.0m ³ /min × 12台
排水ポンプ車	60m ³ /min級ポンプ 直列操縦20m	25-4405	5.0m ³ /min × 12台
照明車	2kW × 4灯	09-1406	可搬式照明装置搭載
照明車	2kW × 6灯 20m級	19-4410	ブーム式
照明車	2kW × 6灯 2柱式	20-4414	
照明車	2kW × 6灯 2柱式	21-4403	
待機支援車	バス型	8-10-1	
待機支援車	資材運搬用	11-10-3	
情報収集車	先遣用	9-10-2	
橋梁点検車	歩廊式	02-1390	
応急組立橋	6 × 40m 歩道付	54-1326	
分解組立・遠隔操縦 対応型バックホウ	1.0m ³ 級	24-4401	
トンネル無人調査 ユニット	小型専用機 ゴムクロウラー式		
災害用トイレ	コンテナ型		
災害対策用人員輸送車	26人乗り	16-10-1	

④羽越河川国道事務所

機 械 名	規 格	機 械 番 号	備 考
排水ポンプ車	30m ³ /min	18-4409	7.5m ³ /min × 4台
照明車	2kW × 6灯 2柱式	20-4413	7.5m ³ /min × 4台

■ 関川の堤防整備率は100%、保倉川は96.9%であることから、両河川とも流下能力の確保等を進めていく。

基本高水 : $3,700\text{m}^3/\text{s}$ (基準点 高田)

河道への配分流量を $3,700\text{m}^3/\text{s}$

基本方針

◆ 基本高水

$3,700\text{m}^3/\text{s}$

年超過確率1/100の規模

◆ 河道・ダムの配分

$3,700\text{m}^3/\text{s}$

※洪水調節施設なし

段階的整備

整備計画目標流量 : $2,600\text{m}^3/\text{s}$ (基準点 高田)

河道への配分流量を $2,600\text{m}^3/\text{s}$

整備計画

◆ 目標流量

$2,600\text{m}^3/\text{s}$

年超過確率1/30(平成7年7月出水を安全に流下させるための計画)

◆ 河道・ダムの配分

$2,600\text{m}^3/\text{s}$

※洪水調節施設なし

■ 姫川は、急流河川特性上、侵食破堤の危険を孕んでいることから、急流河川対策として、護岸及び根固め工等の整備を優先的に実施していく。

基本方針

基本高水 : 5,000m³/s (基準点 山本)

河道への配分流量を5,000m³/s

◆基本高水

5,000m³/s

年超過確率1/100の規模

◆河道・ダムの配分

5,000m³/s

※洪水調節施設なし

段階的整備

整備計画

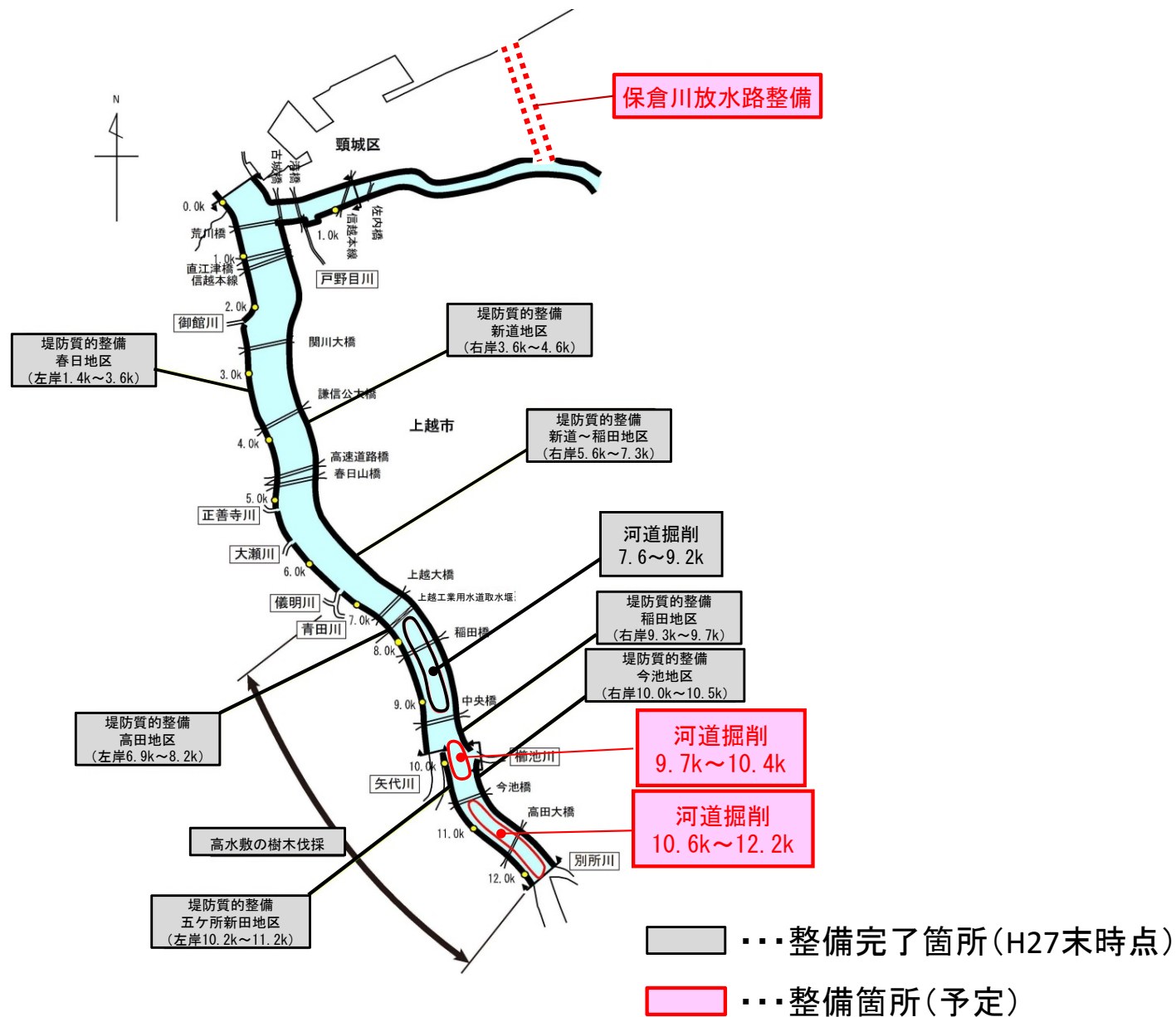
整備計画目標流量 : 戦後最大規模の洪水である平成7年7月洪水と同規模の洪水を安全に流下させる
(基準点 山本)

河川改修の整備状況(関川)

■関川は、戦後最大洪水を安全に流下させるため、河道掘削により流下能力を確保する。

■事業内容

・河道掘削

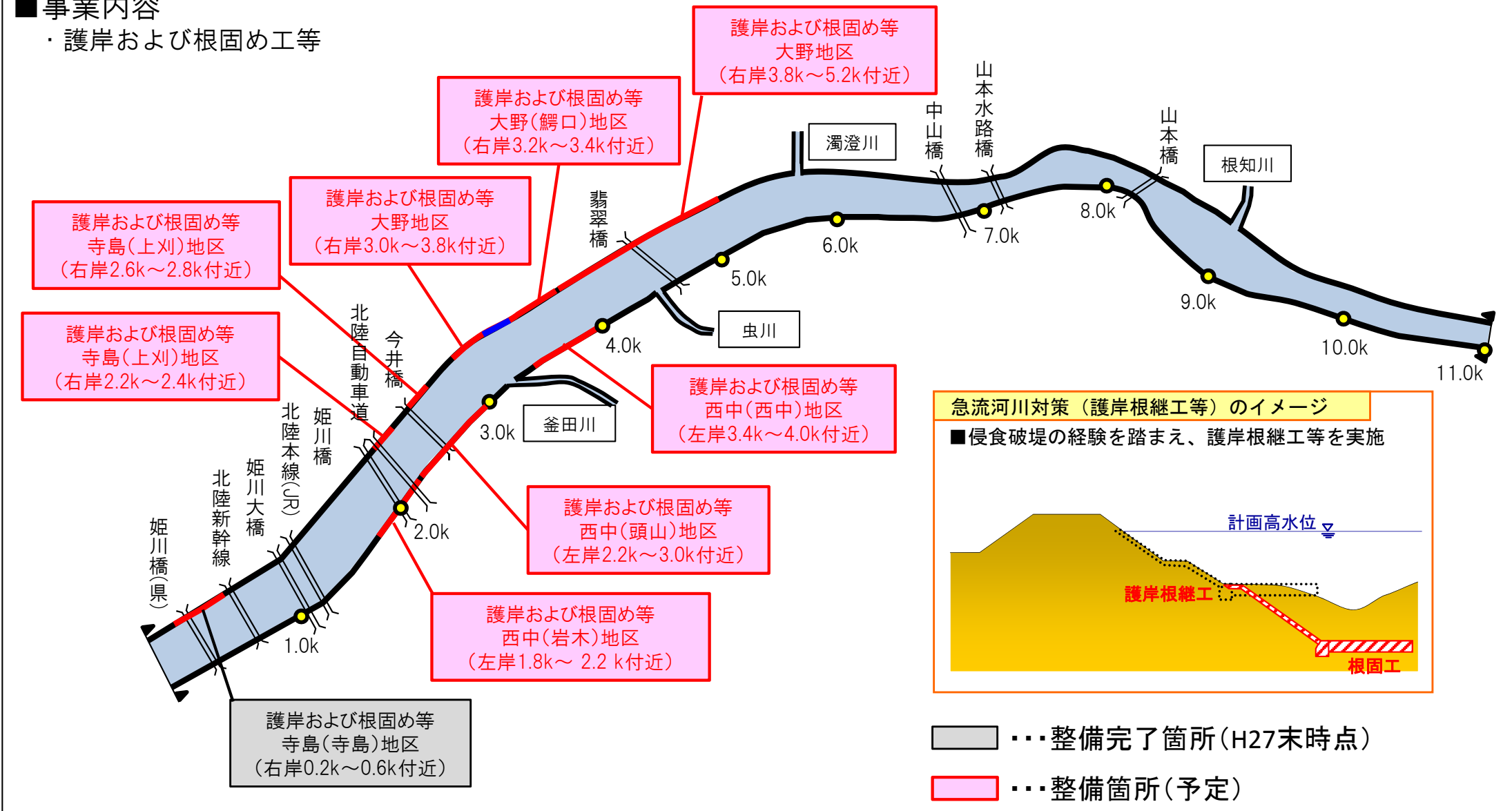


河川改修の整備状況(姫川)

■ 姫川は、急流河川特性上、侵食破堤の危険を孕んでいることから、急流河川対策として、護岸及び根固め工等の整備を優先的に実施している。

■ 事業内容

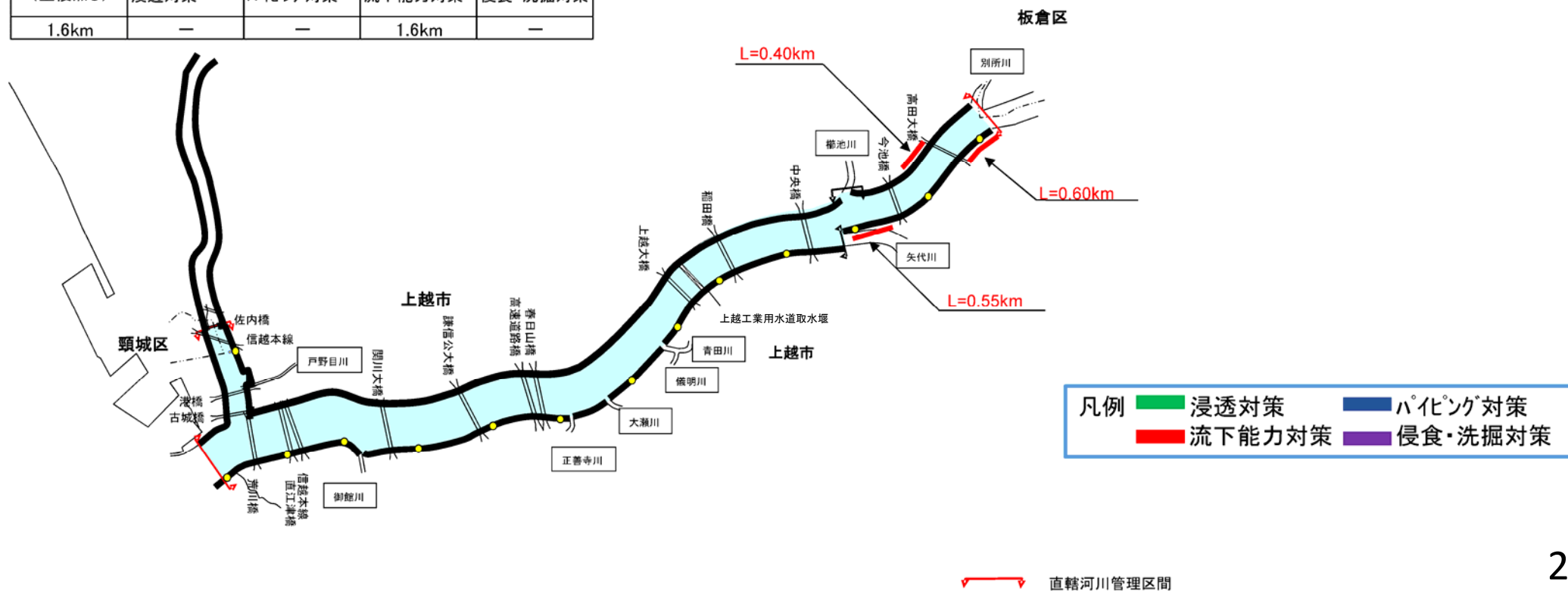
- ・ 護岸および根固め工等



■関川は、戦後最大洪水を安全に流下させるため、河道掘削により流下能力を確保する。



実施区間延長 (重複無し)	内訳			
	浸透対策	ハ・化・ン・グ対策	流下能力対策	侵食・洗掘対策
1.6km	—	—	1.6km	—

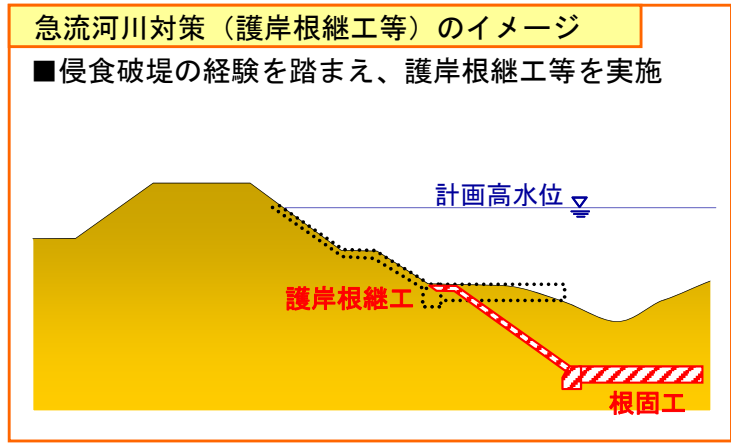
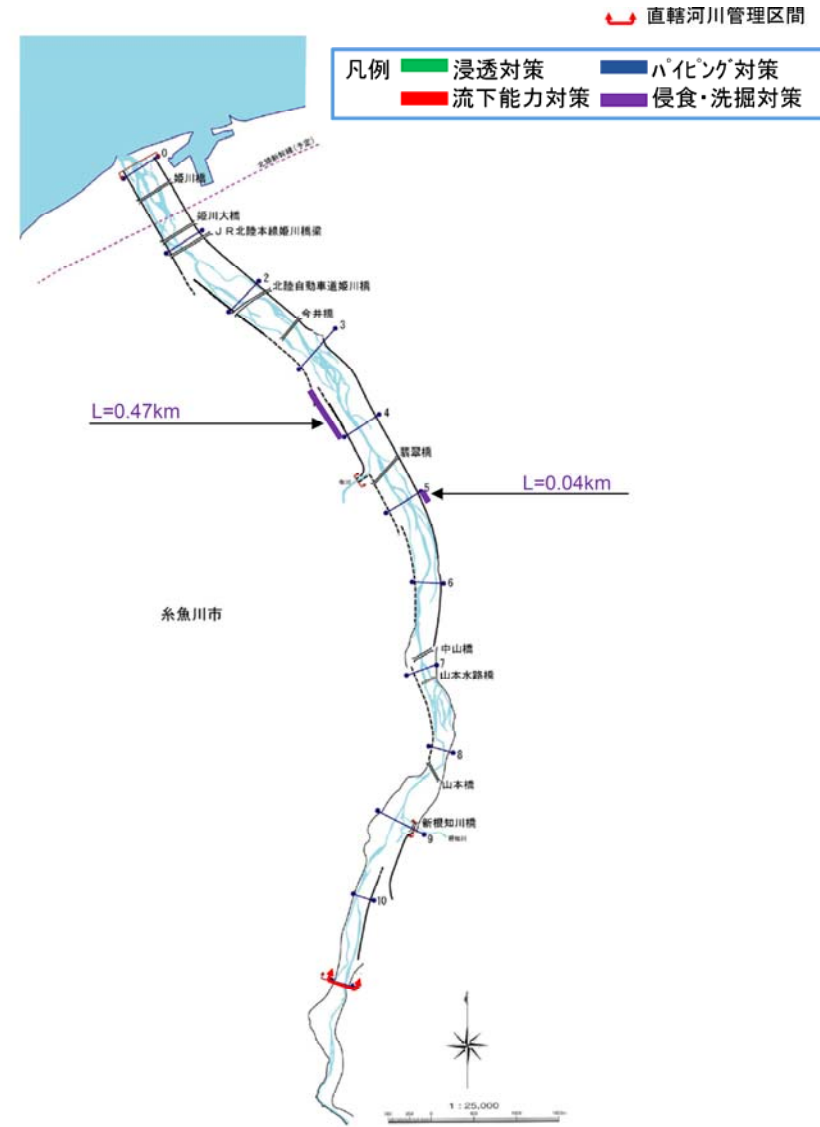


洪水を安全に流すためのハード対策(姫川)

■急流河川である姫川は、流れが速く、土砂を多く含んだ洪水流の強大なエネルギーによって、堤防等が侵食され決壊する危険性がある。侵食・洗掘による堤防決壊を防止するため、「洪水を安全に流すためのハード対策」の一環として、堤防の侵食対策を実施する。



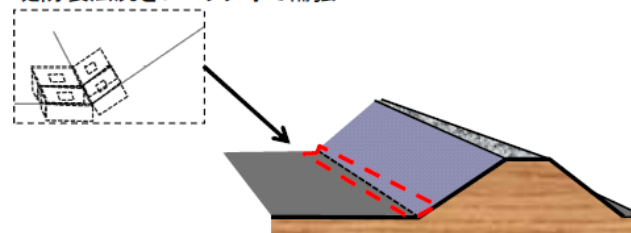
平成25年6月洪水



実施区間延長 (重複無し)	内訳			
	浸透対策	パイピング対策	流下能力対策	侵食・洗掘対策
0.5km	-	0.1km	-	0.5km

堤防裏法尻の補強

堤防裏法尻をブロック等で補強



凡例

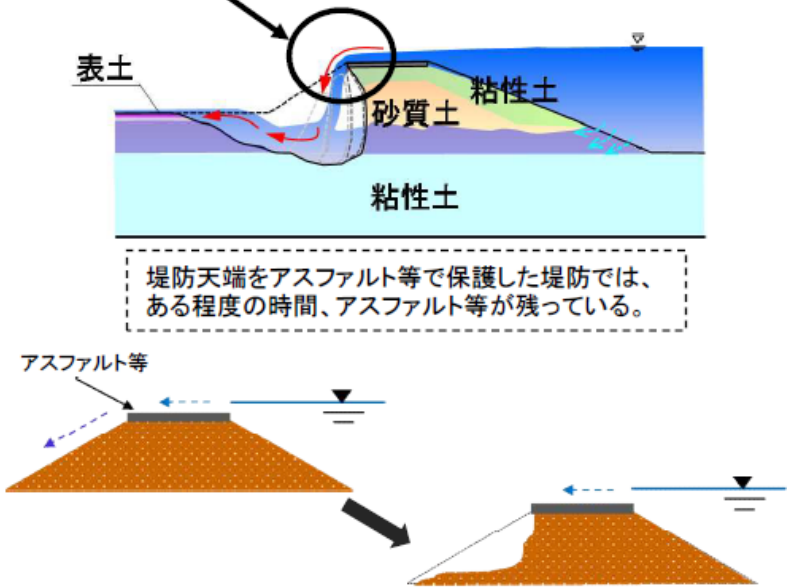
- 天端の保護
- 裏法尻の補強

直轄河川管理区間

■平成27年9月関東・東北豪雨を受け、策定した「水防災意識社会再構築ビジョン」の取組みの一環として、緊急的に堤防構造を工夫する対策として、堤防天端や裏法尻の保護を平成32年度を目途に、今後概ね5年間で実施する。

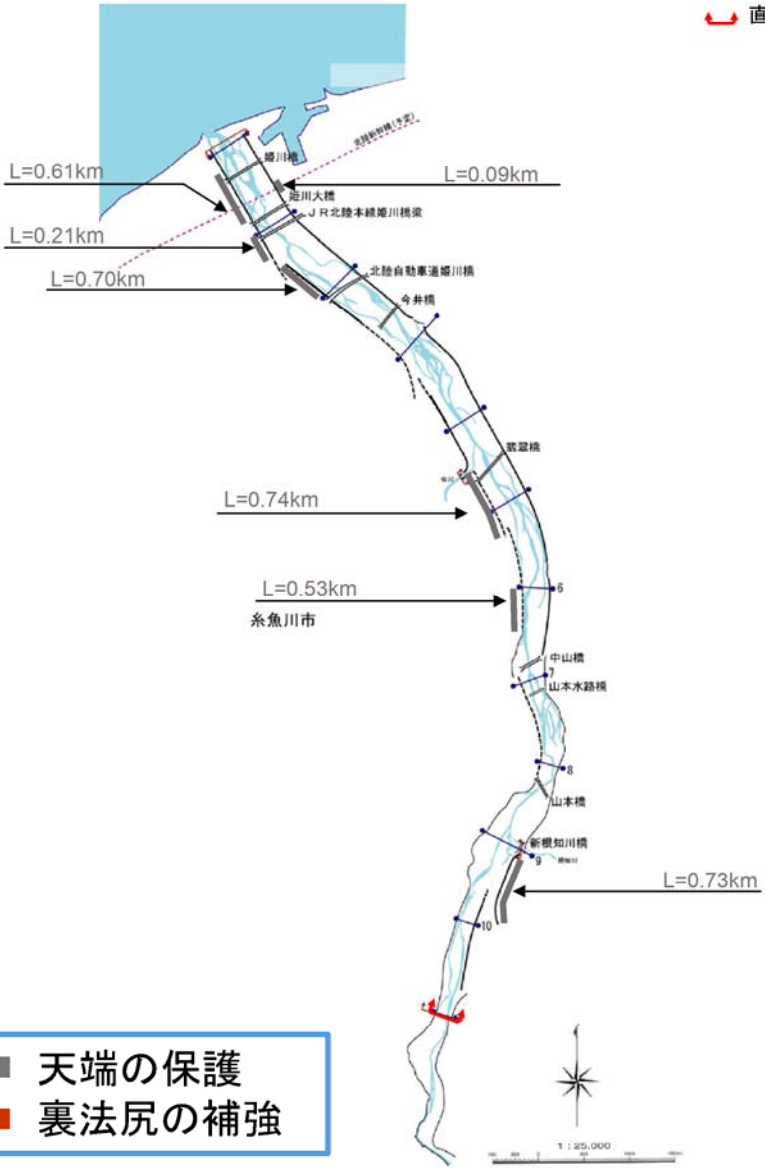
堤防天端の保護

- 堤防天端をアスファルト等で保護し、法肩部の崩壊の進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす



実施区間延長 (重複無し)	内訳	
	天端の保護	裏法尻の補強
3.6km	3.6km	—

直轄河川管理区間



凡例

天端の保護

裏法尻の補強

各機関の減災に係る取組状況等 ～ 新潟県 ～

県のソフト対策の現状

迅速な情報伝達、避難計画等の支援

- ①: 水防警報等による基準水位到達情報の提供
- ②: 各市町村の避難勧告発令基準の共有
- ③: 水防警報迅速化システム
- ④: 浸水想定区域図の公表

水防体制の強化

- ⑤: 出水期前の合同点検の実施
- ⑥: 広域的な水防資材の確保
- ⑦: 水防団向け洪水対応ポケットブック

住民の防災意識の向上

- ⑧: 防災教育に役立つ情報の周知
- ⑨: 家庭向けの避難啓発

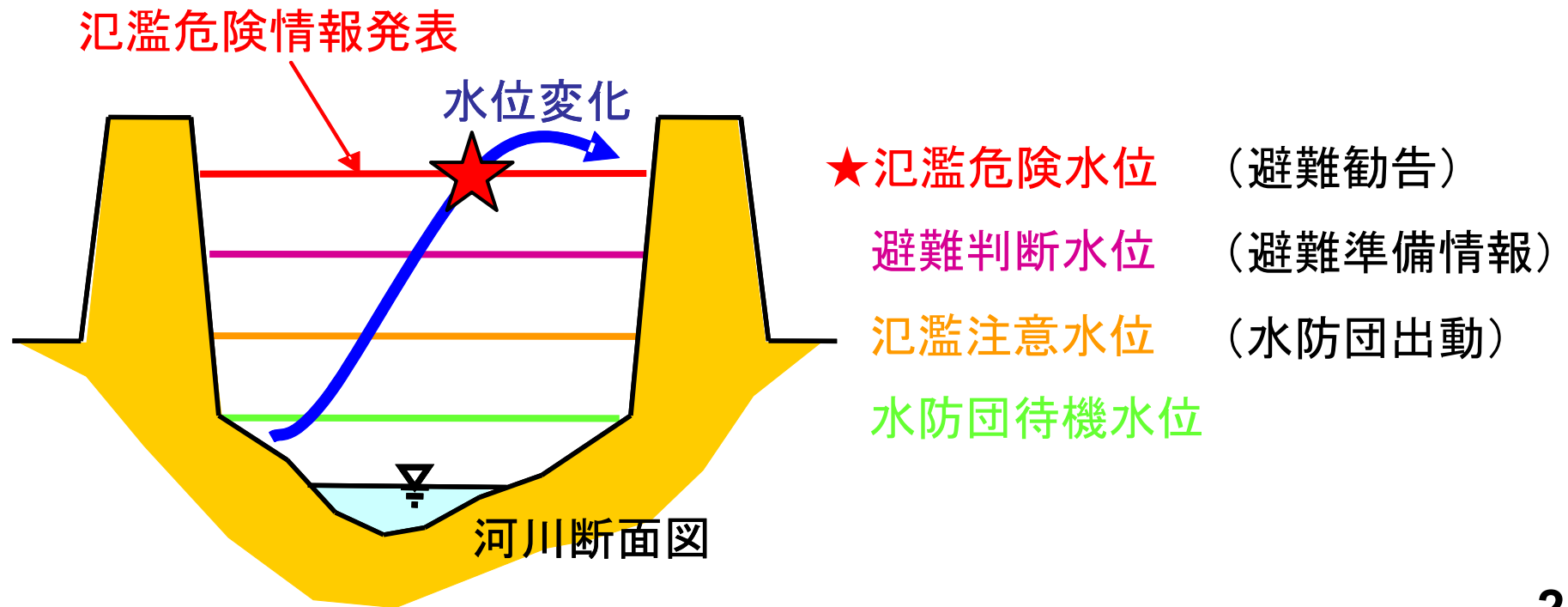
水防警報等による基準水位到達情報の提供

『水位周知河川』

避難の指標となる**氾濫危険水位**に河川水位が達した時に、インターネットや市町村などを通じて住民にその水位情報などを周知する河川

県管理河川の水位周知河川

保倉川・矢代川・渋江川・正善寺川・柿崎川・姫川

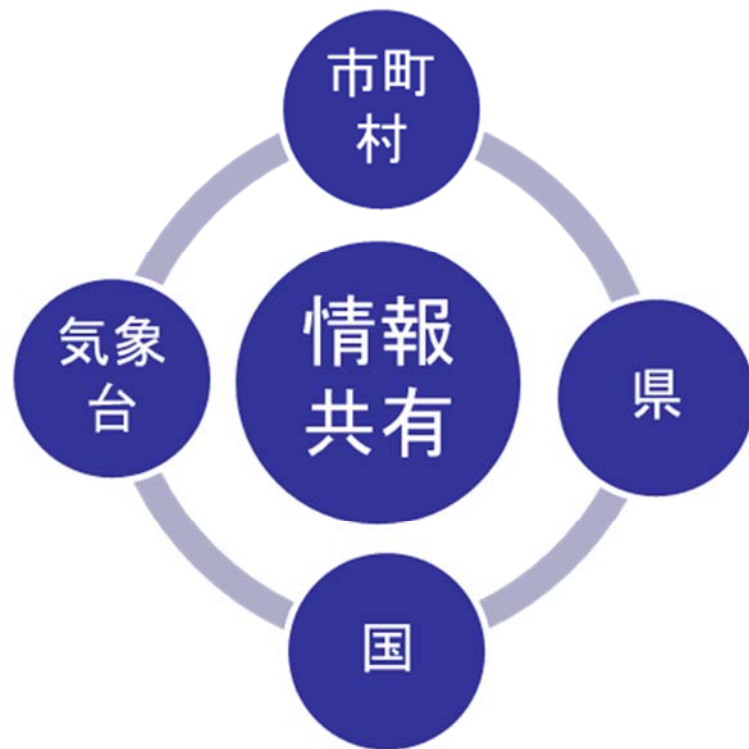


各市町村の避難勧告発令基準の共有

◆取組状況

各市町村の洪水に関する避難勧告等発令基準をとりまとめ、
北陸地方整備局、新潟地方気象台へ情報提供

情報共有のイメージ



各市町村の避難勧告の判断基準を情報共有



洪水時の対応を事前に想定しておく。

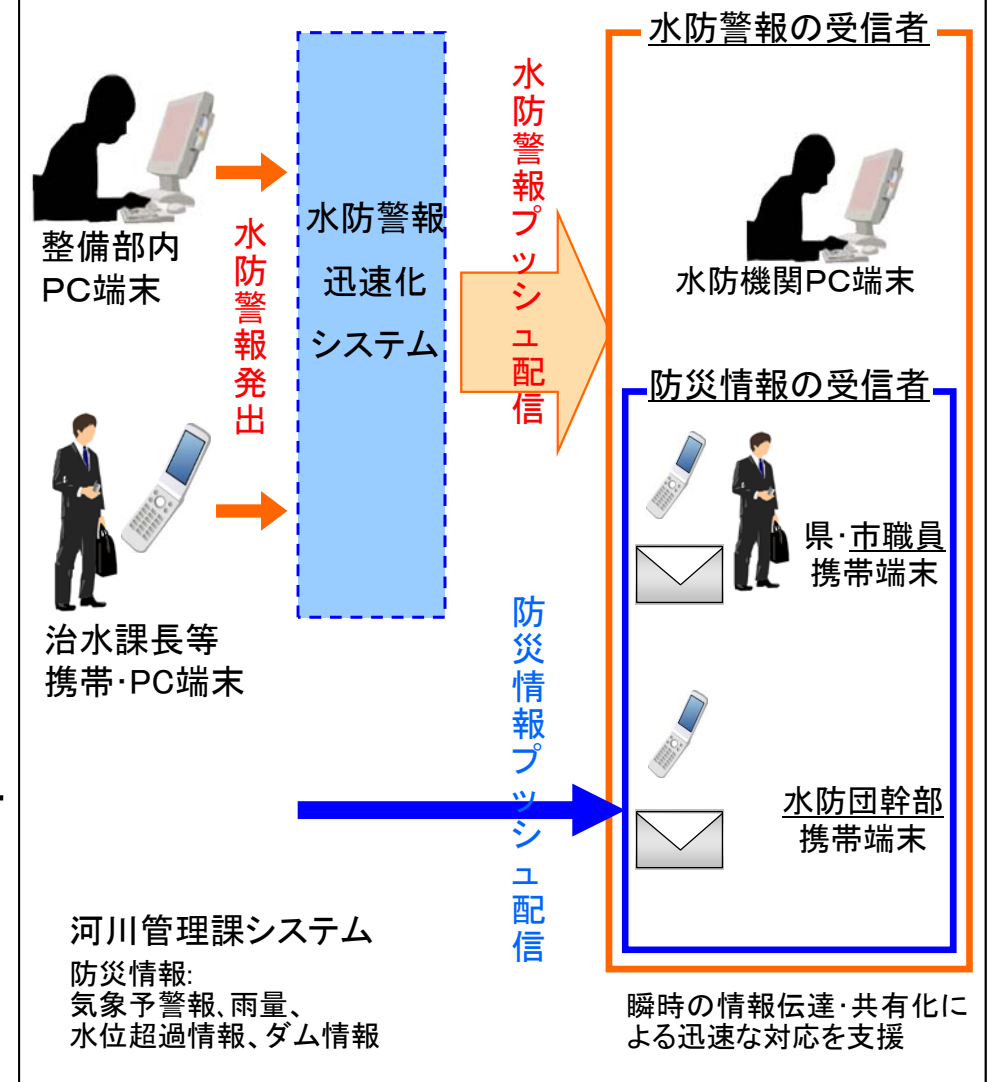
水防警報迅速化システム

～職員負担軽減と迅速な情報伝達・共有のために～

〔システムの概要〕

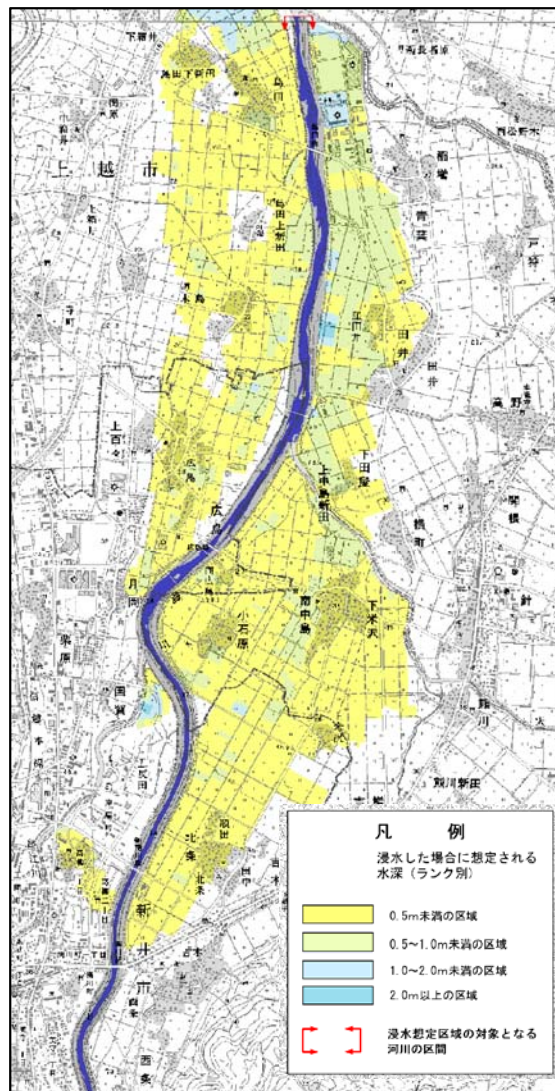
- ・水防警報の自動作成が可能
- ・治水課長等の携帯・PC端末から水防警報発出が可能
(レベル2まで)
- ・水防関係者(市職員、**水防団**幹部)に水防警報、防災情報の一斉プッシュ配信が可能
- ・各機関で必要な情報のみの受信選択が可能

水防警報迅速化システムのイメージ

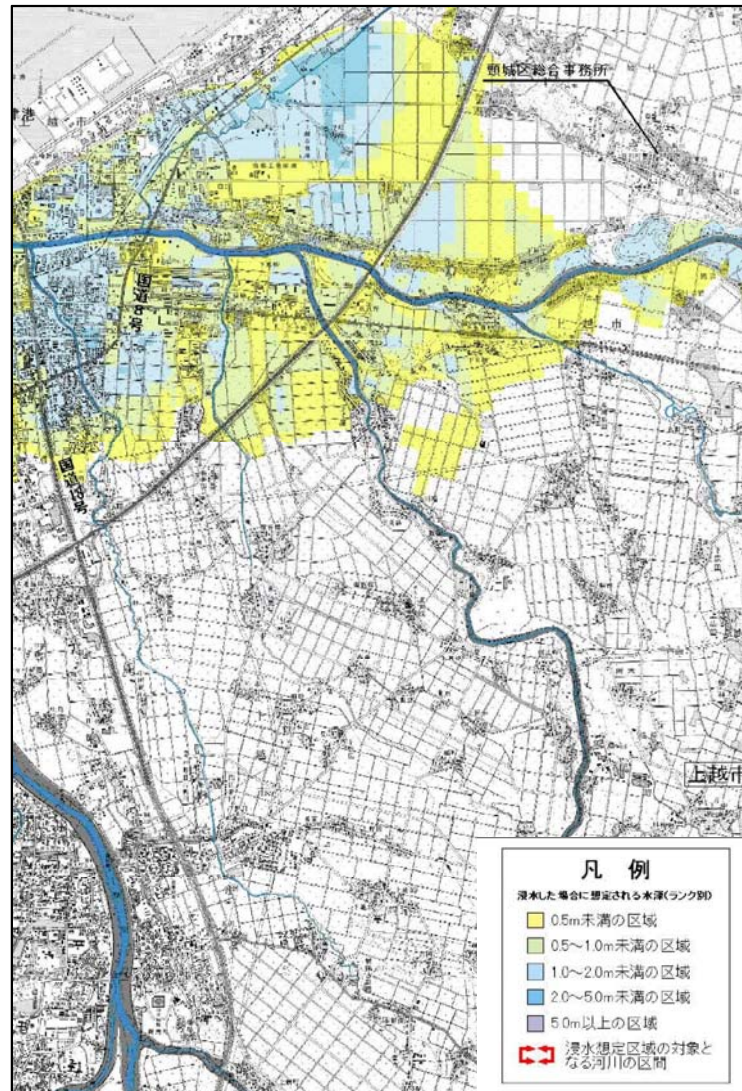


浸水想定区域図の公表

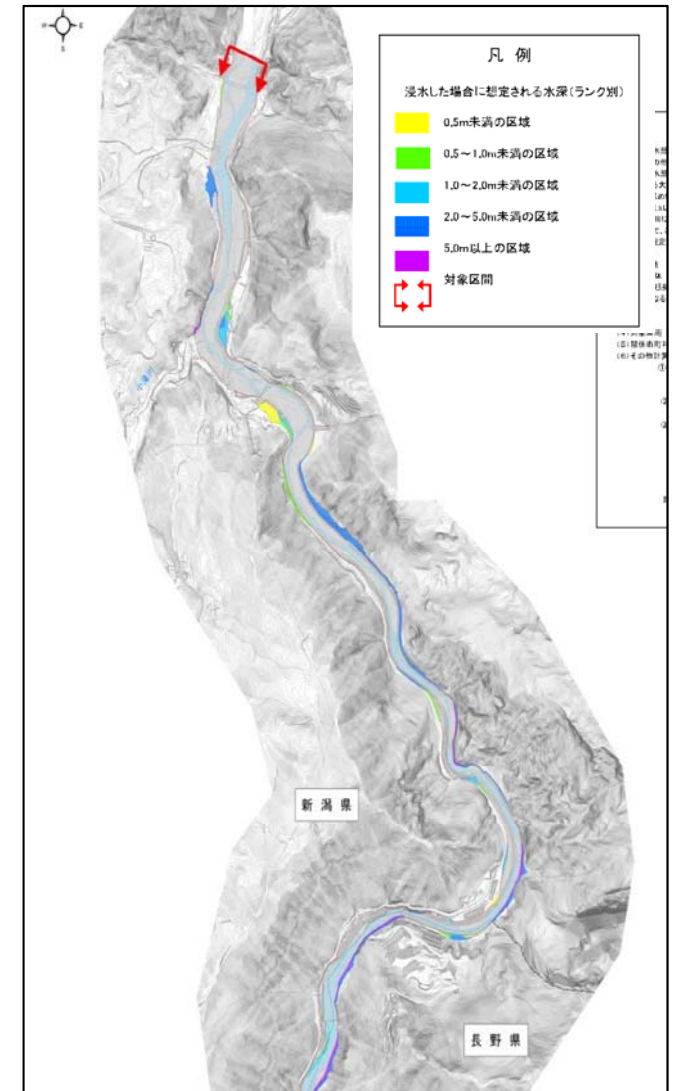
○関川・保倉川は、浸水想定区域図「概ね100年に1回の大雨を想定」を公表済み
○姫川は、浸水想定区域図「概ね100年に1回の大雨を想定」を公表済み
※関川・保倉川・矢代川は、想定最大規模の浸水想定区域図を平成28年作成中



関川浸水想定区域図
(概ね100年に1回の大雨を想定)



保倉川浸水想定区域図
(概ね100年に1回の大雨を想定)



姫川浸水想定区域図
(概ね100年に1回の大雨を想定)

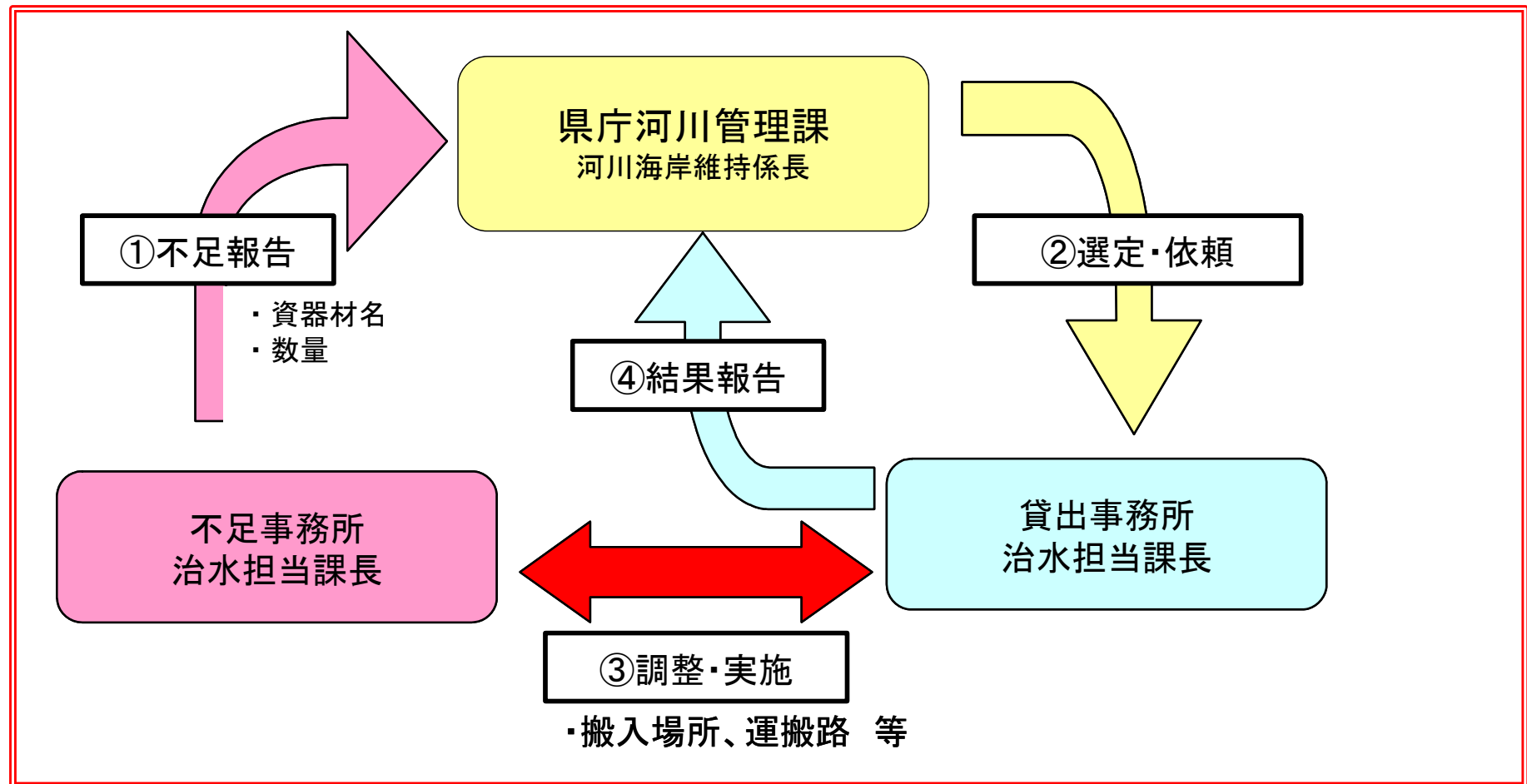
洪水に対しリスクが高い区間の合同点検

-
- The map illustrates the Katsuragi River basin, a significant waterway in the Kanto region. The river is shown flowing from the north towards the south, with numerous tributaries joining it. Key locations marked on the map include Maebashi, Maebashi, and Maebashi. The legend in the bottom right corner provides a key to the symbols used, such as red lines for the main river, blue lines for tributaries, and various symbols for bridges, dams, and administrative boundaries. The map also shows the surrounding terrain, including hills and valleys, and the locations of various towns and villages.

6

広域的な水防資材の確保

【 資器材不足発生時の広域的な応援体制をコーディネート(新潟県) 】



水防団向け洪水対応ポケットブック

○水防工法や水防活動時の注意事項を記載した、水防団向けの ポケットブックを、県内の水防団員分作成し、市町村を通じて配布した。
(約38,000部)

○消防学校の講義で消防職員(初任課)へ配布した。
(約90部)



防災教育に役立つ情報の周知

防災教育に役立つ資料集として写真や既存のページのリンクをまとめたホームページを作成。

＜掲載内容＞

- ・過去の写真
- ・過去の水害・豪雨状況
- ・浸水実績図／浸水想定区域図／ハザードマップ
- ・防災啓発資料
- ・用語集

防災教育に役立つ資料集
新潟県内の小・中学校では、平成26年度より「新潟県防災教育プログラム」を活用した防災教育に取り組んで、 防災教育の補足資料として活用してください。 なお、写真については随時追加、更新を行います。
河川の写真
写真を一覧から探す(※主に洪水時の写真を掲載しています。)
過去の水害・豪雨状況
過去の水害・豪雨状況が一覧になります
浸水実績図、浸水想定区域図、ハザードマップ
浸水実績図、浸水想定区域図、ハザードマップはこちら
防災啓発資料
川をよく知ろう！ ～水難事故に遭わないために～ 海岸での戻り流れに注意してください！！ 洪水時の避難に役立つ情報について 川や海で遊ぶときのやくそく(北陸地方整備局)
用語集
河川関係用語集 河川に関する用語(国土交通省)

家庭向けの避難啓発

○平成27年9月関東・東北豪雨を踏まえて、洪水時の情報収集や避難の判断基準などを、一般住民に理解してもらえるよう家庭向けのチラシを作成し、県ホームページで公表
(H27.10.16公表)

○クリアファイルを10,000部作成し市町村や県地域整備部へ提供
(H28.2.18)

家庭用保存版

洪水から命を守る

大雨のとき、どうすればいいの？

平成27年9月豪雨後、新潟県内各地で大雨が降りました。大雨のとき、どうすればいいの？

テレビやラジオで情報収集をしよう

- ～市町村が発信～
 - 避難指示 ⇒ 避難していない人は直ちに避難を開始
 - 避難勧告 ⇒ 全ての人が避難を開始
 - 避難準備情報 ⇒ 避難に時間を要する人は避難を開始
- ～新潟地方気象台が発信～
 - 大雨特別警報 ⇒ 数十年に一度の大災害が起こると予想されるために命を守る行動を開始
 - 大雨洪水警報 ⇒ 大雨や河川の増水による重大な災害が発生するおそれがあると予想される
- ～知事や地デジ放送の利用～
 - ①Aボタンを押します
 - ②Aボタンで河川水位情報に合わせます
 - ③決定ボタンを押します

避難判断水位を超過したら避難を検討しましょう。

パソコンや携帯電話でも情報提供をしています。【新潟河川】
URL: <http://doboku-bousai.pref.niigata.jp/kasen/>

新潟県土木部河川管理課

日頃の準備と洪水時の情報に注意しましょう

- ①日頃からの準備
市町村が配布している洪水ハザードマップなどで避難所や避難経路を確認してください。【新潟河川】
- ②雨の降り方に注意
全国的に雨の降り方が変化し、集中豪雨の発生が増えています。川の急な増水に注意してください。
- ③河川の水位に注意
河川の水位を6段階に区分し、危険な場合は市町村やテレビ、ラジオ等を通じてお知らせしています。
- ④洪水からの避難
避難所への避難（水平避難）が原則ですが、遅れた時は2階への緊急避難（垂直避難）を検討しましょう。

河川付近では、洪水による家屋倒壊の危険性があるため、避難所への早めの避難を心がけましょう。

避難場所

家族が離ればなれになった時の集合場所

家族の連絡先			
名前	携帯電話番号	会社や学校名	会社や学校の連絡先

MEMO

身の危険を感じたら、近所の方と自主的に避難をしましょう。

各機関の減災に係る取組状況等 ～ 新潟地方気象台 ～

交通政策審議会気象分科会提言

「新たなステージ」に対応した防災気象情報と 観測・予報技術のあり方

新潟地方気象台

「新たなステージ」に対応した防災気象情報と観測・予測技術のあり方(提言の概要)

背景

「新たなステージに対応した防災・減災のあり方」(平成27年1月 国土交通省)

- 雨の降り方が変化していること等を「新たなステージ」と捉え、危機感をもって防災・減災対策に取り組むことが必要。最悪の事態も想定しつつ、今後の検討の方向性についてとりまとめ。
- 命を守るため、避難を促す状況情報の提供、避難勧告等の的確な発令のための市町村長への支援が必要であるとともに、大規模水害等における広域避難や救助等への備えの充実が必要。

「新たなステージ」に対応した防災気象情報と観測・予測技術のあり方

(平成27年7月29日 交通政策審議会気象分科会提言)

防災気象情報

- 可能性が高くなるとも、社会に大きな影響を与える現象が発生するおそれを積極的に発表
- 危険度やその切迫度を分かりやすく提供

早急に実現可能な改善策

- ①翌朝までの「警報級の現象になる可能性」の提供
- ②実況情報の迅速化
- ③メッシュ情報の充実・利活用促進
- ④時系列で危険度を色分けした分かりやすい表示
- ⑤タイムライン支援のため数日先までの「警報級の現象になる可能性」の提供

- 市町村等への支援や住民への普及啓発活動の継続
- 分かりやすい防災気象情報となるよう不断の見直し

観測・予測技術

- 観測・予測技術は防災気象情報の基盤

概ね10年先を見据えた取組

- ・積乱雲：
ひまわり8号の利用技術、次世代気象レーダーの導入や利用技術
- ・集中豪雨：
水蒸気の観測、メソアンサンブル予報技術※
- ・台風：
強度予報の延長、進路や雨・高潮等の予測の改善

- 研究～実用化まで担う気象庁の総合力の発揮
- 国内外の関係機関との更なる連携の促進
- スーパーコンピュータシステム等の業務基盤の維持・機能向上

※初期値や条件がわずかに異なる複数の予測を行い、最も起こりやすい現象や現象の起きる確度を予測する技術

「新たなステージ」に対応した防災気象情報と 観測・予測技術のあり方」審議の背景

提言補足資料

提言（はじめに、第1章）

【新たなステージに対応した防災・減災対策のあり方（平成27年1月 国土交通省）】

- 雨の降り方が局地化・集中化・激甚化していること等を「新たなステージ」と捉え、危機感を持って防災・減災対策に取り組んでいくことが必要。
- 命を守るため、「心構え」の醸成と「知識」の充実（災害リスクの認知度と避難力の向上）とともに、避難を促す状況情報の提供、避難勧告等の的確な発令のための市町村長への支援、大規模水害等における広域避難や救助等への備えの充実が必要。

【気象庁の取組の現状と課題】

- 気象庁は最新の科学技術を取り入れ、「防災気象情報」を提供。
- 平常時から、都道府県等と連携し、市町村の防災対策を支援し、住民の自助・共助意識の醸成等にも取り組んでいる。
- 防災気象情報は、市町村では避難勧告等の判断材料として、住民はさらなる情報入手や安全確保行動のきっかけとして利用。
- 市町村からは、より精度が高く、きめ細かで、危険度の違いが分かりやすい情報の提供が求められている。

【現状の予測技術の水準】

- 台風及びその周辺域での広域な雨量の、数日先までの予測は、精度に限界がある。
- 集中豪雨を、市町村単位で発生場所、時刻を特定して予測することは困難。
- 局地的な現象を精度よく予測することは困難で、大規模な現象であっても、予測期間が長くなるほど、不確実性が増大する。

これらを踏まえて

現状と課題の整理を行ったうえで、現在の技術で実現可能な**防災気象情報の改善**と
中長期的に取り組むべき**観測・予測技術向上**の取組の方向性を中心に議論

広島市の土砂災害事例を踏まえた防災気象情報の課題

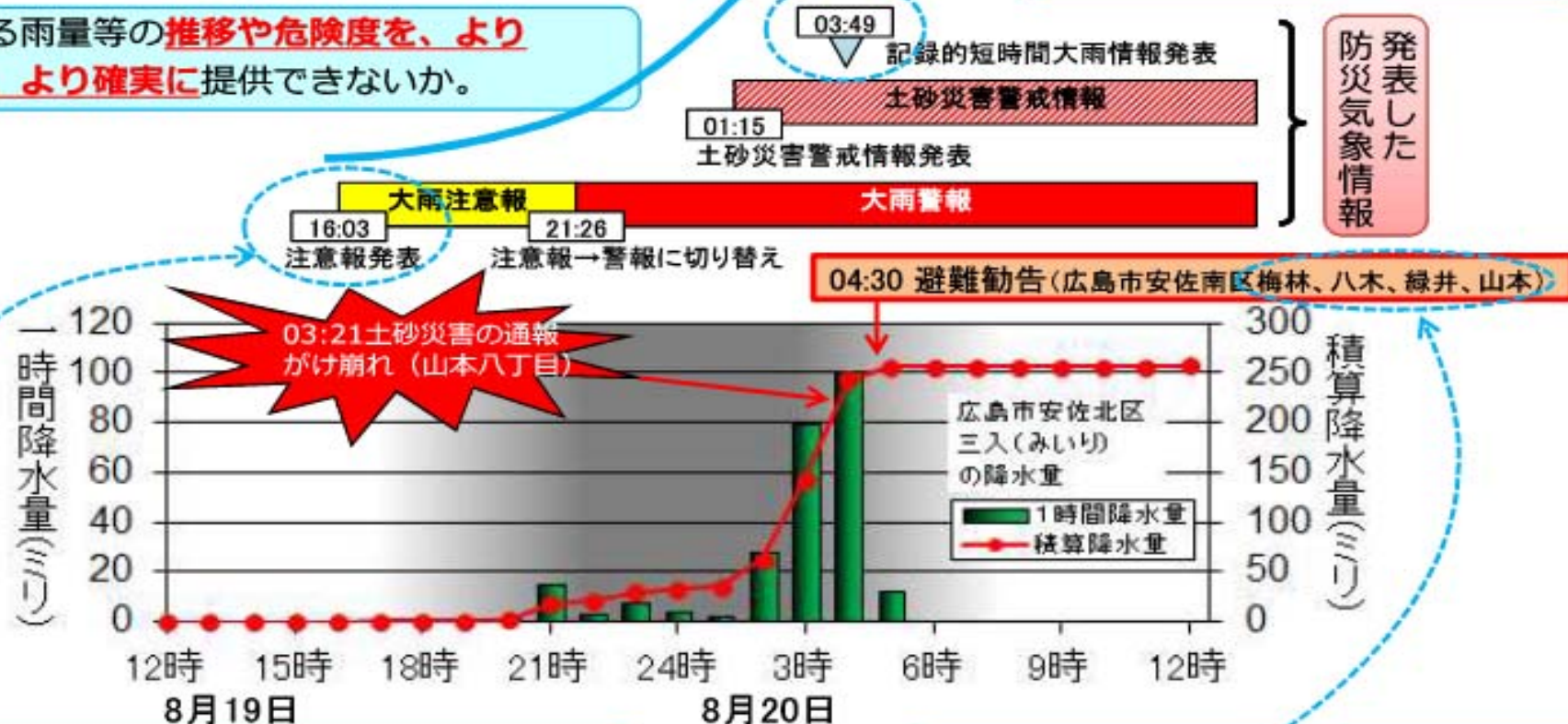
提言（第1章）

危険の切迫度について住民が認識しやくなるよう、情報提供上の改善や工夫はないか。

8月19～20日の広島市の豪雨 防災気象情報の発表状況と課題

今後予想される雨量等の推移や危険度を、より分かりやすく、より確実に提供できないか。

実況情報をより迅速に発表していくことができないか。



夜間の避難を回避するため、確度が高くなるとも警報級の現象になる可能性があることなど、早い段階から一段高い呼びかけの実施ができないか。

避難勧告等の対象範囲の判断を支援するため、メッシュ情報の充実や利活用の促進が必要ではないか。

注) 図中の、土砂災害の通報及び避難勧告については、広島市の「平成26年8月20日の豪雨災害避難対策等に係る検証結果」(平成27年1月、8.20豪雨災害における避難対策等検証部会)より。

台風・大規模水害対策等に関する防災気象情報の課題

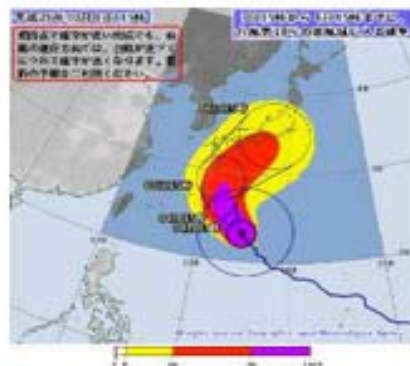
提言（第1章）

いわゆる「スーパー台風」の襲来などにおいては、タイムラインによる数日前からの防災対応が想定される。それを支援するため、数日前の段階からどのような情報提供が効果的か。

現在の防災気象情報



台風強度予報（3日先まで）の例



台風の暴風域に入る確率
(地域ごと時間変化) の例



台風5日進路予報の例



週間天気予報の例

タイムラインのイメージ

		国土交通省	交通サービス	市町村	住民
台風発生	台風上陸 3日前	○台風予報 ○台風に関する記者会見	体制の 早期構築 ○連絡体制等の確認 ○協力機関の体制確認	運行停止の可能性を 早めに周知 ○交通サービス 運行停止予告	広域避難の可能性を 早めに周知 ○広域避難体制の 確認・周知 ○防災用品の準備
台風上陸 の可能性	台風上陸 1日前	○台風に関する記者会見 (特別警報発表の可能性) ○大雨・洪水等警報 ○はん濫警戒情報 ○大雨・暴風・高潮等 特別警報 ○はん濫危険情報	○リエゾンの派遣 ○所管施設の点検	○運行停止手続の 確認・公表 ○避難勧告・指示 ○広域避難者の誘導・ 受入	早期に 広域避難を開始 ○広域避難の開始 ○広域避難の誘導・ 受入
災害発生 の危険性	台風上陸 12時間前	○はん濫発生情報	○市町村長へ事態切迫 状況の伝達	○避難勧告・指示 ○避難所確保	○屋内安全確保
台風接近	0時間前	○はん濫発生情報	○はん濫発生情報	○はん濫発生情報	○はん濫発生情報
台風上陸		○はん濫発生情報	○はん濫発生情報	○はん濫発生情報	○はん濫発生情報

国土交通省「新たなステージに対応した防災・減災のあり方に関する懇談会」
(<http://www.mlit.go.jp/saigai/newstage.html>) 第2回資料3より抜粋・加筆

現状の台風に関する情報では、暴風に関する数日先の予測は提供しているものの、その他の現象については、週間天気予報において雨が降るかどうかの予報を提供しているのみ。

→台風等を想定したタイムラインによる防災対応を支援するため、数日先までの予測に関する防災気象情報の提供の強化が必要ではないか。

防災気象情報のあり方

基本的方向性

- 社会に大きな影響を与える現象について、可能性が高くなるとも発生のおそれを積極的に伝えていく。
- 危険度やその切迫度を認識しやすくなるよう、わかりやすく提供していく。

① 翌朝までの「警報級の現象になる可能性」の提供

- 夜間の避難を回避するため、可能性が高くなっても、「明朝までに警報級の現象になる可能性」を夕方までに発表

② 実況情報の迅速化

- 迅速な安全確保行動を促進する観点から、記録的短時間大雨情報をこれまでより最大で30分早く発表

③ メッシュ情報の充実・利活用促進

- メッシュ情報の充実
- さまざまな地理情報との重ね合わせ
- メッシュ情報の利活用促進



道路や河川、鉄道などの地理情報と重ね合わせメッシュ情報を提供

④ 時系列で危険度を色分けした分かりやすい表示

- 今後予測される雨量等や危険度の推移を時系列で提供
- 危険度を色分け

【現在】

注意報・警報
(文章形式)



【改善策】

平成××年×月×日 11時××分×× 気象庁発表

××市 【発表】大雨(土砂災害、浸水害)、洪水警報
【観測】暴風、浸水警報、高潮警報

	今日				明日			
	雨	土	水	風	雨	土	水	風
雨量(mm)	10	30	50	80	50	30	10	0
大雨(浸水害)								
洪水								
風	強上(10m/s)	15	20	20	25	20	20	15
暴上(10m/s)	20	25	25	30	25	25	20	15
暴上(10m)	4	6	6	8	6	6	4	3
暴上(10m)	0.6	0.6	1.3	1.8	1.8	0.6	0.6	0.6

⑤ タイムライン支援のため数日先までの「警報級の現象になる可能性」の提供

- 台風等対応のタイムライン支援の観点から、数日先までの警報級の現象になる可能性を提供

日付		あす	あさって	(金)	(土)	(日)
警報級の 可能性	雨	—	中	高	高	—
	風	—	中	高	高	中

継続的・中長期的に取り組むべき事項

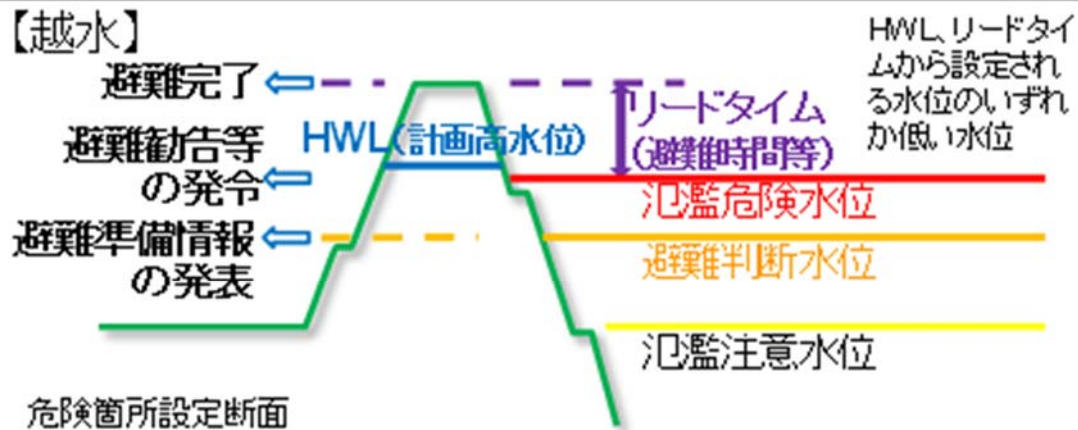
- 市町村等への支援や住民への普及啓発活動の継続
- 分かりやすい防災気象情報となるよう不断の見直し

各機関の減災に係る取組状況等 ～ 上越市 ～

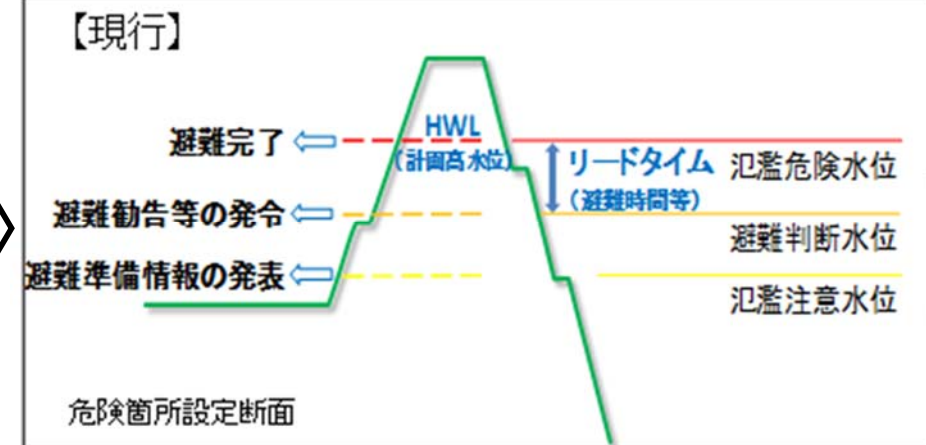
独自の危険水位の運用

○平成26年9月に「避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン」の改定に伴い、危険水位の設定要領が改定されたが、当市においては、市民に早期の避難行動を促す観点から、従来どおりの基準により運用している。

【改定後の危険水位の設定要領】



【当市の基準】※従来どおり

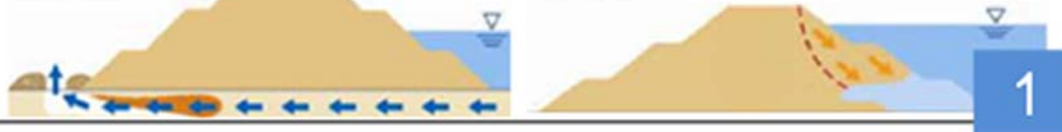


【漏水・侵食】

漏水・侵食の監視を強化し、危険がある場合には、水位によらず対応

【漏水】

【侵食】



総合防災訓練、図上訓練の実施

- 例年、地震、津波、土砂、水害等を想定し、市民や上越地域消防事務組合をはじめとした防災関係機関を交えた総合防災訓練を実施するとともに、防災関係機関を交えた災害対策本部運営に係る図上訓練を実施している。
- 今年度は、昨年の常総市での災害を受け、水害、土砂災害を想定した総合防災訓練及び災害対策本部運営に係る図上訓練を実施する予定

平成27年度総合防災訓練(H27.8.29)



平成27年度災害対策本部運営図上訓練(H27.7.25)



各機関の減災に係る取組状況等 ～ 糸魚川市 ～

住民への情報伝達の体制や方法

- 糸魚川市は、防災行政無線屋外子局のアナログからデジタルへの移行に伴い、設備の更新やデジタル化を図っている
- 防災行政無線の屋外広報は大雨時には聞こえにくいため、デジタル化移行に合わせ戸別受信機の整備を進めている。
- 安心メール(登録者)により防災情報をはじめとする各種情報を配信している



防災行政無線 屋外子局



戸別受信機

地域住民の水防防災意識の向上に向けた取り組み

- 糸魚川市は「地域の安全・安心を守る」活動として、大規模災害時の初動対応のような住民の誘導や被災者の救援等の局面での協力が期待されている自主防災組織の育成に積極的に取り組んでいる。
- 毎年、全市一斉の総合防災訓練、防災リーダー研修を通じ、防災意識の醸成を図っている。
- 自主防災組織活動カバー率(世帯ベース): 82.3%(H28.4.1時点)



総合防災訓練（住民避難訓練）



防災リーダー研修（災害図上訓練DIG）

各機関の減災に係る取組状況等 ～ 妙高市 ～

住民への情報伝達について

- 妙高市では、防災行政無線（移動系）のアナログからデジタルへの移行に伴い、避難所無線、消防団無線を更新し、市民や消防団を対象に無線の取り扱い説明会を開催している。
- みょうこう安全・安心メール（登録制）により、防災情報や生活情報などを発信している。
- 昨年末に開局したFMみょうこうの運営会社である上越ケーブルビジョンと緊急放送に関する協定を締結している。また、併せて、県土砂災害警戒情報システム、高解像度降水ナウキャストについても広く市民へ周知している。



避難所無線取り扱い説明会



FMみょうこう

FM 78.5MHz
FMみょうこう

FMみょうこう ハートスタジオ
〒944-0037 新潟県妙高市字校司4-25
TEL 0255-70-0785
FAX 0255-70-0788
HP <http://fm-myoko785.jp>
E 0120-988-945

FM公式アプリで
FMみょうこうが聴けます！

もしものときに...
新潟県土砂災害警戒情報システム
避難等の判断目安となるよう、
当該地域の詳細な土砂災害
危険度などを確認すること
ができます。

気象庁 高解像度降水ナウキャスト
気象レーダーの観測レーダー
を利用して、降水の短時間
予報を確認することが
できます。

みょうこう安全・安心メール

火災や災害情報、不審者情報などを迅速に市民の皆さん
にお届けするため、「みょうこう安全・安心メール」で
情報を発信しています。ぜひご登録ください。

《登録方法》
まずは「myoko@entry.mail-dpt.jp」へ空メール送信》
《登録方法がわからない方は》
市役所総務課広報情報係までご連絡を
電話：0255-74-0004



啓発チラシ（名刺サイズ）

地域防災力の向上に向けた取り組み

- 妙高市では、自主防災組織の実動訓練に向けた取り組みを防災士や消防団と協働で取り組んでおり、平成27年度末の訓練実施率は65.9%となっている。
- 妙高市では、自主防災組織に最低1人の防災士を配置することを目指し養成に取り組み、平成27年度末で178人が資格を取得されています。また、防災士のスキルアップ研修も行っております。



地域防災訓練(避難訓練)



防災士スキルアップ研修